

2012年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

11

新潟大学教育学部

ANNUAL REPORT

教育学部年報 2012 目次

1. イベント・カレンダー	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
2. 特色ある教育活動	3
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 フレンドシップ実習	
2.3 入門教育実習	
2.4 研究教育実習	
2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業	
2.6 教育実習	
2.7 介護等体験	
2.8 インターンシップ	
・ 学校インターンシップ	
・ 企業等インターンシップ	
2.9 各課程の特色ある教育活動	
2.10 高校生対象体験講義	
2.11 中・高校生及び保護者の大学見学	
3. 就職支援	29
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教員採用・就職活動バス支援	
3.8 教育学部就職情報ホームページ	
4. 平成 24 年度 学部 F D ・ S D	41
5. 地域貢献	43
5.1 市民・教員を対象とした公開講義	
5.2 教育委員会との連携事業	
5.3 新潟大学免許法認定公開講座	

5.4 主な委員就任状況

6. 国際交流	49
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
7. 附属施設の活動	56
7.1 附属新潟小学校	
7.2 附属新潟中学校	
7.3 附属特別支援学校	
7.4 附属幼稚園	
7.5 附属長岡小学校	
7.6 附属長岡中学校	
8. 外部資金	71
8.1 科学研究費補助金	
8.2 寄付金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	
9. 教育・研究業績	75

〔巻末資料〕

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

1. イベント・カレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	5日	新潟大学入学式，教育学部新入生保護者懇談会
	6日	大学院教育学研究科新入生ガイダンス 教育学部学年別ガイダンス（1年次，3年次）
	9日	教育学部学年別ガイダンス（2年次，4年次）
	11日	第1学期開始
	21日	黎明祭
	26日	教採合格ガイダンス（4年次学生向け）
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	4日	春期教育実習（～6/15）
	9日	大学院教育学研究科現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	21日	教育学部後援会役員会
	27日	新潟大学名誉教授称号授与式
	28日	教員採用試験支援プログラム（小論文，模擬授業，面接，体育実技，音楽実技）（～8/7）
30日	教育学部後援会理事会・総会	
7月	7日	新潟市立小・中学校教員採用検査（第1次検査）（～7/8） 東京都教採・就活バスツアー（～7/9）
	8日	新潟県公立学校教員採用検査（第1次検査）
	20日	愛知県・名古屋市教採・就活バスツアー（～7/22）
	21日	教員免許状更新講習（～11/4）
	27日	教職12年経験者研修（～8/17）
	31日	第1学期定期試験（～8/6）
8月	9日	新潟大学オープンキャンパス（～8/10）
	11日	夏期休業（～9/30）
		免許法認定公開講座（～10/28）
	14日	学校図書館司書教諭講習（～8/24）
	17日	新潟市立小・中学校教員採用検査（第2次検査）（～8/19）
	18日	新潟県公立学校教員採用検査（第2次検査）（～8/21）
27日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会	
9月	5日	大学院教育学研究科入学試験
	10日	観察参加実習（～9/14）
	19日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
	20日	秋期卒業式
	28日	全学就職総合ガイダンス
10月	1日	秋期入学式，第2学期開始
	2日	3年次学生向け教採ガイダンス
	20日	新潟大学Week 2012（～10/28） ※ 新大祭，企画展示「いてゑもん物語～おわってはいまの校舎の記憶～」，書道パフォーマンス「祭りだ！わっ書い！」，パフォーミングアート，「アレッシオ・バックス」ピアノ・リサイタル，「新潟大学五十嵐キャンパスを走ろう～スローランニング」入門
	22日	秋期教育実習（～11/2）
11月	17日	推薦入試（健康スポーツ科学課程，芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験 養護教諭特別別科入学試験
	19日	企業・公務員希望者向け就職対策講座
	20日	三条市教育委員会と教育学部との連携協議会
	21日	就職なんでも相談会（～12/18）
	26日	教育実習運営協議会
12月	4日	推薦入試（健康スポーツ科学課程，芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験合格者発表 養護教諭特別別科入学試験合格者発表
	6日	教員採用試験支援プログラム（合格者体験発表）
	8日	推薦入試（学校教員養成課程）
	14日	東京の学校見学バスツアー支援（～2/22）
	19日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	24日	冬期休業（～1/6）
1月	7日	授業開始
	17日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	19日	大学入試センター試験（～1/20）
	29日	教員採用試験支援プログラム（教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス）
2月	4日	第2学期定期試験（～2/8） 大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験
	12日	推薦入試（学校教員養成課程）合格者発表
	14日	大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験（前期日程）（～2/26）
3月	8日	新潟大学入学試験（前期日程）合格者発表
	11日	春期休業（～3/31）
	12日	新潟大学入学試験（後期日程）
	14日	教育学部後援会理事会
	22日	新潟大学入学試験（後期日程）合格者発表
	25日	新潟大学卒業式，教育学部卒業祝賀会

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《 附属新潟中学校 》

《 附属特別支援学校 》

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

月	日	事	項	日	事	項	日	事	項	日	事	項
4	6	着任式、始業式、入学式	第1学期新任教式、始業式	6	9	着任式、始業式、入学式	9	9	着任式、始業式、入学式	9	9	着任式、始業式、入学式
	10	新入生歓迎会	入学式	9	16	全校仲良しの会	16	16	全校仲良しの会	16	16	全校仲良しの会
	17	全国学力・学習状況調査	P.T.A.総会	13	P.T.A.総会	18	全校学習参観日	18	全校学習参観日	18	13	身体測定
	27	生徒総会	27	27	27	PTA・後援会総会	27	27	PTA・後援会総会	27	27	PTA・後援会総会
5	2	全校参観日	対面式	16	16	発見遠足	16	16	発見遠足	16	16	発見遠足
	26	附属大運動会	第1回避難訓練	15	15	第1回避難訓練	15	15	第1回避難訓練	15	15	第1回避難訓練
	31	中条自然教室(4年)～(5/1)	運動会	26	26	運動会	26	26	運動会	26	26	運動会
	4	春季教育実習(～15日)	開学記念日	4	4	春季教育実習(～15日)	4	4	春季教育実習(～15日)	4	4	春季教育実習(～15日)
6	8	全校角田登山	春季教育実習～15日	4	4	春季教育実習(～15日)	4	4	春季教育実習(～15日)	4	4	春季教育実習(～15日)
	25	演劇鑑賞教室	公開講座	18	18	高専部インターンシップ～7月13日	18	18	高専部インターンシップ(心の教育)	18	18	高専部インターンシップ(心の教育)
	28	全校参観日	25	25	公開講座	28	28	新吉川アースデイバル	28	28	新吉川アースデイバル	
	28	新潟地区陸上大会(～29日)	25	25	学校説明会①	20	20	1学期終業式	20	20	1学期終業式	
7	4	新潟地区各種大会(～5日)	3	3	学校説明会②	20	20	1学期終業式	20	20	1学期終業式	
	12	通信陸上大会	4	4	公開講座	23	23	5・6年立山自然教室(～25日)	23	23	5・6年立山自然教室(～25日)	
	18	全学年懇談会(～20日、22日)	7	7	連絡を考える会「働く体験会」	17	17	21・22年中越地区吹奏楽コンクール	17	17	21・22年中越地区吹奏楽コンクール	
	24	1学期終業式	20	20	第1学期終業式	25	25	25・26県総合体育大会	25	25	25・26県総合体育大会	
8	6	北信越総合体育大会(～9日)	25	25	小学部サマースクール	7	7	7親善水泳大会	7	7	7親善水泳大会	
	17	全国中学校体育大会(～24日)	1	1	小学部サマースクール	23	23	27・28学年参観日	23	23	27・28学年参観日	
	30	2学期始業式	2	2	高専部夏校～25日、小学部サマースクール	25	25	27・28学年参観日	25	25	27・28学年参観日	
	27	2学期始業式	25	25	卒業生名開け会	27	27	27・28学年参観日	27	27	27・28学年参観日	
9	3	立山自然教室(6年)～(6日)	3	3	第2学期始業式	10	10	2年次教育実習(～14日)	10	10	2年次教育実習(～14日)	
	10	2年次臨察参加実習(～14日)	12	12	演劇発表会	22	22	演劇発表会	22	22	演劇発表会	
	10	2年次臨察参加実習(～14日)	13	13	2学期終業式	19	19	3学期始業式	19	19	3学期始業式	
	20	秋季教育実習(～11月2日)	20	20	小学部校外学習、小3校内宿泊学習	31	31	秋季教育実習(～11月2日)	31	31	秋季教育実習(～11月2日)	
10	3	クロスカントリー～ははの森(中・高)	5	5	新潟市総合体育大会	19	19	第3回特別支援教育研究会	18	18	教育研究協議会	
	5	クロスカントリー～ははの森(低)	22	22	秋季教育実習(～11月2日)	21	21	秋季教育実習(～11月2日)	21	21	秋季教育実習(～11月2日)	
	20	附属ミュージアム	22	22	秋季教育実習(～11月2日)	31	31	高専部3年生修学旅行(神埼方面～11月2日)	31	31	高専部3年生修学旅行(神埼方面～11月2日)	
	20	秋季教育実習(～11月2日)	16	16	附属ミュージックステーション	5	5	高専部インターンシップ～12月6日	5	5	高専部インターンシップ～12月6日	
11	16	附属ミュージックステーション	4	4	学校説明会	20	20	児童のつどい	20	20	児童のつどい	
	20	児童のつどい	28	28	生徒立会酒席会	28	28	生徒立会酒席会	28	28	生徒立会酒席会	
	28	生徒立会酒席会	30	30	全学年懇談会(12月3日～5日)	8	8	入学者検査(～9日)	8	8	入学者検査(～9日)	
	30	全学年懇談会(12月3日～5日)	8	8	入学者検査(～9日)	15	15	合格発表	15	15	合格発表	
12	1	新1年生入学選考(4日)	21	21	2学期終業式	7	7	懇談会、給食試食会	7	7	懇談会、給食試食会	
	21	2学期終業式	15	15	合格発表	21	21	2学期終業式	21	21	2学期終業式	
	21	2学期終業式	8	8	3学期始業式	7	7	3学期始業式	7	7	3学期始業式	
	8	3学期始業式	25	25	冬の教育研究発表会	11	11	新入生保護者説明会	11	11	新入生保護者説明会	
1	25	冬の教育研究発表会	28	28	3学年進路懇談会(～30日)	15	15	新入生保護者説明会	15	15	新入生保護者説明会	
	28	3学年進路懇談会(～30日)	18	18	高スキー・そり教室	7	7	3学期始業式	7	7	3学期始業式	
	28	3学年進路懇談会(～30日)	18	18	高スキー・そり教室	11	11	高スキー・そり教室	11	11	高スキー・そり教室	
	18	高スキー・そり教室	7	7	3学期始業式	15	15	新入生保護者説明会	15	15	新入生保護者説明会	
2	7	初等教育研究会(～8日)	5	5	2学年沖繩の旅(～8日)	21	21	1学年東京巡検(～22日)	21	21	1学年東京巡検(～22日)	
	27	高学年スキー授業(～28日)	21	21	1学年東京巡検(～22日)	11	11	高スキー・そり教室	11	11	高スキー・そり教室	
	27	高学年スキー授業(～28日)	18	18	高スキー・そり教室	18	18	高スキー・そり教室	18	18	高スキー・そり教室	
	18	高スキー・そり教室	18	18	高スキー・そり教室	18	18	高スキー・そり教室	18	18	高スキー・そり教室	
3	8	6年生を送る会	5	5	同窓会入会式	1	1	小学部6送会、中・高専部3送会	1	1	小学部6送会、中・高専部3送会	
	21	3学期終業式	8	8	第65回卒業証書授与式	14	14	卒業証書授与式	14	14	卒業証書授与式	
	22	第66回卒業証書授与式	11	11	公立高校一般選抜検査	15	15	公立高校一般選抜検査	15	15	公立高校一般選抜検査	
	22	第66回卒業証書授与式	15	15	3学期終業式	26	26	離任式	26	26	離任式	

2. 特色ある教育活動

2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要

No.	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標	実施時期、期間
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。	通年
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。	通年
3	観察参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1) 附属学校園における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。	9月、5日間
4	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。	春期・秋期、各2週間、総計4週間
5	研究教育実習	4年次生、大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。	通年
6	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める	通年
7	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。		通年
8	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。		8～10月
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。		通年
10	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。		通年
11	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。	通年

関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
公民館、学童保育施設、少年センター等	50名	52名	「教育実践体験研究Ⅰ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」（文部省（当時）、平成9年度開始）に連動する授業科目として設定（「教育実践体験研究」）。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	103名	「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目（教育実践研究関連科目）により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
附属学校園（6校）		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計338名	「教育実習事前・事後指導」（2単位、学校教員養成課程においては必修）の一環を構成	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
附属学校園、協力校園 総計（のべ）205校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計（のべ）807名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
附属学校、協力校	特に設定しない	29名	各教科において多様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」（3年次対象）および「総合教育実習」（4年次対象）を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	117校、230人(派遣要請総数)	89校、149名(新潟青陵大学からの派遣数は含まない数)	「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位） 平成17年度より新設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成（カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」）。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。
新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課	特に設定しない	平成24年度新規登録10名（教育学部生9 大学院生1） （登録学生人数 教育学部12名、他学部3名）	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計8校（新通、五十嵐、西内野、東青山、笹口、牡丹山、鏡淵、湊）に、ボランティア・スタッフとして学生を派遣した。
見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	41名 （のべ102名）	特に設定しない	見附市立見附小学校、見附第二小学校、名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、新潟小学校、上北谷小学校、今町小学校、見附中学校、南中学校、今町中学校、西中学校（総計12校）に対して、主として、8月～10月に実施された補充学習（国語、算数等）、自然教室、水泳指導等に学生を派遣した。
三条市教育委員会・学校教育課、三条市立小中学校	特に設定しない	5校、5名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立岡小学校、裏館小学校、上林小学校、第一中学校、第三中学校（総計5校）。 (2) この他、「わくわく科学フェスティバル」（8月）、三条市中学校音楽祭（11月）、子育て支援課「放課後子ども教室」に対しても、それぞれ、12名、3名、4名（19名）の学生を派遣した。
燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	10名 （のべ43名）	特に設定しない	小学校2校（燕西小、吉田北小）に、学習支援（授業補助）、行事（自然教室）補助、課外活動（陸上練習指導）補助等に派遣した。中学校4校（燕中、小池中、吉田中、分水中）に、学習支援（授業補助）、補充学習（長期休業中）支援、適応指導補助等に派遣した。
附属学校園、協力校園	特に設定しない	6名	「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、選択必修、2単位）	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」（研究科共通科目、必修、2単位）の一環として実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 フレンドシップ実習

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で16年目を迎えた。おもに、教育学部学校教員養成課程1，2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである。）

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、昨年度同様に計4コース（募集人数50名程度）を開設した。昨年度、事前広報活動が不足し、フレンドシップ実習参加者が少なかったことの反省を踏まえ、4月の新入生ガイダンス等での説明の仕方・回数等を見直した。その結果、何れのコースでも参加者数が増加した。活動の魅力を新入生に伝える方法を更に工夫することが、今後の課題でもある。

通常の講義等への出席に支障をきたさないように、原則週末・休業中等を利用してコース毎に実習を実施した。その成果を報告するため12月15日（土）に参加者全員が集まり交流・発表会を開催した。各コース発表はそれぞれの特性が表れ、活動の充実ぶりが伝わるものであった。

6年前から、全体発表会運営と報告書編集を学生主導で運営する体制をとってきたが、今年度は事前準備の都合で、報告書編集委員のみを組織した。同委員会では、全体発表会後数回の会議を開き、報告書編集作業に取り組んだ。学生主導型運営体制の整備・充実が目指したい。

下記は、今年度の各コースの活動概要である。

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生
① グループ体験コース	松井賢二	個別実習 9月中 全体実習 8月21日	ひまわりクラブと連携し 学生企画の遊びで交流	ひまわり クラブ	17名
② 自然科学実体験コース	宮菌 衛	5月から12月まで 計7回（土曜日午前）	NPO 法人星空ファクトリー 主催科学実験講座の補助	NIC 新潟大 学前	6名
③ 野外活動体験コース	大橋正春	9月1日 10月6-7日	ウォークラリーとテント 泊・キャンプファイヤー	新潟大学 構内	24名
④ 「子どもふれあいスクール」コース	佐藤佐敏	1学期から毎週、定期的継続的に学校を訪問して実施している	市教委と連携し放課後や 土曜日午前中に学校施設 内で地域の子どもと遊び 等を通しての触れあい	新通小学 校など新 潟市内複 数の学校	5名
全体発表会	佐藤佐敏 松井賢二 宮菌衛	12月15日（土） 午前中	各コースの活動発表と小 グループでの意見交流会 を学生主導で実施	教育学部 204講義室 他	52名（欠 席者はビデ オ補講）

2.3 入門教育実習——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

(1) 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて14年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」専門部会）が実施を担当している。平成24年度においては、実習協力校12校3園、学部教員33名、実習校教員15名の受け入れ・指導体制によって実施した。

(2) 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は116人、受入者は103人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～12名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。平成24年度においては、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ態勢の強化を図った。設定したコースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	11名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	6名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	10名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	12名
(D) 幼稚園訪問コース	8名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	10名

上記の体制により、学生は、5月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

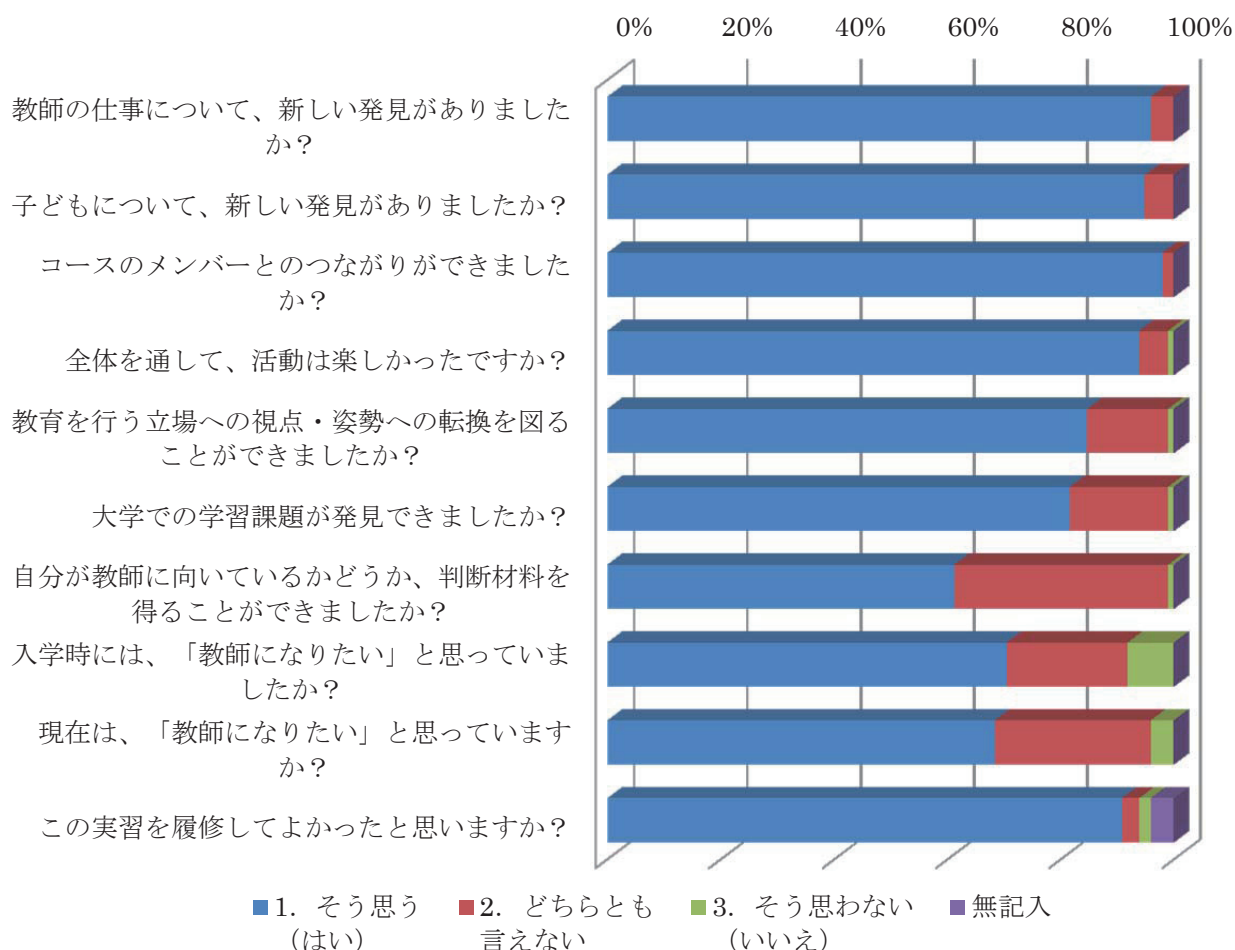
教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員4名、過去の履修経験者（4年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

(3) 学生の動向

平成24年度における学校教員養成課程の入学者は228人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は116名、履修希望者は104名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、50.8%、45.6%にあたる。最終的な受入学生数は103人であり、これは履修希望者の99.0%にあたる。

平成 24 年度における新たな取り組みとして、報告会の機会を利用して、「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数 98 名、回収率 95%）。結果の一部を次に示す。

グラフ . 「入門教育実習」の成果と課題に関するアンケート調査の結果より



(4) おわりに

関連する取り組みとして、佐渡市の学校を訪問する実習（通称「佐渡実習」）の開始に向けた準備を進めてきた。この実習は、「入門教育実習」の取り組みの中から生まれた新しい実習であり、平成 25 年度より、新しい授業科目「教育実践体験研究Ⅳ」（2 単位、選択）において実施される予定である。

「入門教育実習」の全体については、『1 年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第 14 年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編、2013 年 3 月）に報告している。学部のホームページにも、その一部を公開している。合わせてご参照頂ければ幸いです。



実習風景

2.4 研究教育実習——教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成24年度においては、家庭科、数学科、理科、保健体育科、音楽科、美術科の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成24年度においては、12月17日に、学習会『「研究教育実習」の現状と課題』が開催され、音楽科、美術科の実践事例が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(IX)』(2013年3月)に記した。

学部担当教員 (所属・専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修 学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、 授業者等)
高木 幸子 (生活環境学科目・家 庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単 位、5人)	卒業研究において、小学校及び 中学校家庭科の学習内容及び指導 方法に関して検討を行い、その内 容の一部について、授業として具 現化し、学校現場で実証的に検討 した。	(1) 附属新潟小学校、5学 年、11月、2名、各3時 間 (2) 附属新潟中学校、1学 年、11月、2名、各2時 間。 (3) 新潟市立沼垂小学校、 6学年、11月、3時間。
高橋 桂子 (生活環境学科目・生 活経営学)	「家庭経営学課題の 分析」(3年次、2期、 2単位)の一部。 本実習は、家庭科教 育専修3年次1名の 卒業研究の一環とし ての位置づけである。	新学習指導要領において消費生 活分野が新たな1つの柱として確 立された。消費生活の骨子である 商品選択や契約&クーリング・オ フをどのように教えるか。中学生 を対象とした授業展開の在り方、 教授法(KJ法、アクティビティ) や標語作成による授業効果の確認 などを行った。	(1) 新潟市立上山中学校 (2学年4組)、家庭科担 当笠原純子教諭にご指 導頂いた。2013年2月 27日(商品選択、賢い消 費者)2時間。2013年3 月6日(契約、クーリン グ・オフ)2時間。
垣水 修 (自然情報講座・幾何 学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単 位、6人)	卒業研究において、世界遺産に 関する学習と算数・数学の学習を どのように結びつけ、それを算 数・数学の教育課程にどのように 取り入れていけばよいかについ ての研究を行った。特に、図形の対 称性と世界遺産を題材とする教材 を開発し、附属新潟小学校におい て授業実践を行い、それを基に授 業分析と考察を行った。	(1) 附属新潟小学校にお いて、5学年の1クラス を対象に、11月14日、2 時間の授業を行った。

山田 和美 (自然情報講座・数学教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、3人)	卒業研究において、ICTを用いた算数・数学科における教材作成を行った。「空間図形」に単元を絞り、3つのソフトウェアを用いて教材を作成し、小学校、中学校で授業実践を行った。授業後には、実践を記録したビデオ、児童・生徒に行ったアンケートをもとに授業を分析、考察した。	(1) 附属長岡中学校1学年2、3組、2時間。 (2) 燕市立燕北小学校6学年1時間。
興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)	該当なし* (3年次3人、4年次2人、教育学研究科の大学院生3人、自然科学研究科の大学院生1人)	理科4科目それぞれにおいて、既習内容から発展的な内容へと繋がる理科授業実践を行った。実施1カ月以上前から実習先と連絡を取り、授業づくり、予備実験、模擬授業などを行った。授業後には、協議会、生徒に対するアンケート調査による授業分析などを行い、考察した。	(1) 燕中等教育学校、3学年、5月～2月の間の4日、80分×2回。 ※2010年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始した。事業は2011年度で終了。
滝澤かほる (保健体育・スポーツ科学講座・保健体育科教育)	「体育方法学演習 I A」 (4年次、前期後期、2単位、2人)	今年度は特別活動のクラブ活動の実習とした。 クラブ活動は、学年や学級を超えて同じ興味・関心を持った児童による活動である。クラブ活動という場におけるリズム体操の取り上げ方、支援の方法や内容について知るとともに、指導実践力を向上させることを目的とした。	(1) 附属長岡小学校、第4、5、6学年リズム体操クラブ、5月～11月の隔週(曜日)14:40～15:50、全10回。 (2) 12月1日(土)第31回体操発表会：新潟市鳥屋野総合体育館、クラブ活動。
森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育学)	「音楽科教育課題研究 I～IV」 (大学院2年次、平成23～24年度、1名)	大学院で2年間かけて、特別支援学校または小学校特別支援学級で実習と実践研究を行った。1年次は駒林特別支援学校(小学部)で実習を中心に行い、そこで得られた知見を2年次に亀田東小学校特別支援学級で授業実践実習を行った。	(1) 新潟県立駒林特別支援学校 平成23度中随時(1週間に1回2時間程度) (2) 新潟市立亀田東小学校 平成24年9月6日(木)4限、10日(月)3限、13日(木)4限、18日(月)3限、20日(木)4限の5日。
佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)	「美術科教育課題研究 III,IV」 (大学院2年次、前期後期、2単位、1人)	日本と内モンゴルの小学校の仲立ちをしながら、絵や手紙の交換などによって、お互いの文化や生活、人について学ぶと共に、造形表現の持つ力を体験的に学ぶための交流授業を行った。	(1) 中国内モンゴルジャールト・ゲリチル小学校、2学年1、2組、3月3、4日。 (2) 新潟市立立仏小学校、2学年1、2組、5月29日。 (3) 新潟市立立仏小学校、2学年1、2組、3学年1、2組、9月10日。
柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、1人)	鑑賞に関する卒業研究「創造的な活動としての鑑賞の授業」に基づいた授業を草間弥生とアントニー・ゴームリーの作品を題材として実践し、生徒の反応からその成果を分析した。	(1) 附属新潟中学校、1学年、10月、1時間。

2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業——学生の学校支援を組み込んだ教育養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後10年にあたる平成24年度において、学校からの派遣要請総数は117校、131人であった。派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、大学院教育学研究科、人文学部、理学部、医学部、自然科学研究科に在籍する学生・大学院生、総計148人である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（61校、100人）、中学校（26校、43人）、幼稚園（2校、3人）、特別支援学校（1校、2人）、中等教育学校（0校、0人）総計90校である。学校数、派遣人数については、平成23年度（87校、152人）から、派遣校数が3校増え、派遣者数が4人減少した。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、この事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生103名のほか、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計107人）。12月には、「平成24年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生115名のほか、大学教員、現職教員等、総計約140人）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成24年度においては、25人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第10年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校8校に対して、15人の学生（大学院生1人、他学部生3名を含む）を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、見附市立学校には12校（小学校8校、中学校4校）に41人、三条市立学校には5校（小学校3校、中学校2校）に5人、燕市立学校には6校（小学校2校、中学校4校）に10人の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景（理科の実験準備）



公開シンポジウム（分科会討論風景）

2.6 教育実習

(1) 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるので、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

(2) 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

① 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

② 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校園において9月に1週間実施した。

③ 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における機会を提供している。

④ 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.7 介護等体験

(1) 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年法律第90号)が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程(平成19年度までは学校教育課程)所属の学生のうち特別支援教育専修(平成19年度までは障害児教育専修)を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

(2) ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成24年4月10日(火)

対 象 平成24年度に介護等体験を希望する者(主として2年生)

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施にあたって

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 菌 衛 部門長

(3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 大竹 嘉則 氏

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

(4) 介護体験の諸連絡等

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

および人文社会・教育科学系学務課職員

○ ガイダンス

月 日 平成24年12月10日(月)

対 象 平成25年度に介護等体験を希望する者(主として1年生)

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

(3) 実習状況

平成24年度は、学校教員養成課程210名、その他の課程91名、大学院2名の計303名が次の表のとおり実習を行った。

(4) 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等による8名の実習取消や、学生の自覚・準備不足による期間変更があるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

平成24年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	51	209	
長岡市	14	18	
三条市	6	7	
新発田市	4	5	
柏崎市	4	5	
加茂市	1	3	
小千谷市	3	3	
十日町市	2	3	
村上市	2	3	
見附市	1	3	
燕市	4	11	
糸魚川市	3	5	
五泉市	4	4	
上越市	5	11	
阿賀野市	1	1	
佐渡市	2	4	
魚沼市	1	1	
南魚沼市	1	1	
胎内市	2	4	
聖籠町	1	1	
関川村	1	1	
合 計	113	303	

平成24年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	H24.5.8 ~ 5.9	31
	2	H24.5.16 ~ 5.17	29
	3	H24.5.24 ~ 5.25	32
	4	H24.6.26 ~ 6.27	32
	5	H24.7.4 ~ 7.5	28
	6	H24.11.7 ~ 11.8	28
	7	H24.11.14 ~ 11.15	32
	8	H24.12.5 ~ 12.6	32
	9	H24.12.12 ~ 12.13	31
	10	H25.1.16 ~ 1.17	28
合 計			303

2.8 インターンシップ

○「学校インターンシップ」—大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2)教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3)専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」(2単位)の一環として位置付けられていたが、平成20年度に行われたカリキュラム改革により、「学校インターンシップ」(教育実践共通科目、2単位)として独立している。

平成24年度は6名の大学院生が2校において活動を実施した。その概要を次に示す。

No.	氏名	分野・専修	配属学校	活動に関する内容		
				教科等	課題、目的等	期間
1	白井 学	学校教育学	竹尾小学校		教師がどの様にして子どもと受容的、応答的關係を結ぶのかを、明らかにする。	10月～3月まで
2	新井 美和	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室果たす役割や児童・生徒の変容について考察する。	5月～3月まで週1回
3	梅田 昌子	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室果たす役割や児童・生徒の変容について考察する。	5月～3月まで週1回
4	佐藤 友佳	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室果たす役割や児童・生徒の変容について考察する。	5月～3月まで週1回
5	白井 理絵	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室果たす役割や児童・生徒の変容について考察する。	5月～3月まで週1回
6	大滝 博美	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室の指導に参加し、通級指導教室果たす役割や児童・生徒の変容について、在籍校との連携の在り方を考察する。	5月～3月まで週1回

また、2012年12月12日に受講生により組織された実行委員会の計画、運営により「学校インターンシップ」報告会が開催された。当日は、有川宏幸委員長による挨拶に続き、3名から活動報告があった。その後、参加学生・教官による質疑応答が行われた。最後に五十嵐尤二教育学研究科長による講評があった。

○企業等インターンシップ（音楽表現コース）

音楽表現コースでは 2001 年度からインターンシップを実施しており、現在、6つの企業や団体が学生を受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall、鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、世界規模の音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。2012 年度のインターンシップには 10 名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成 24 年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第 11 号を参照

・Hakuju Hall:7・8月(2名)

リクライニング・ジャズ・ヴォーカル・コンサート、並びに第6回 Hakuju ギターフェスタ 2012 等でのケータリング業務・受付業務・タイムキーパーなどの運營業務。アーティスト・レコーディングセッションの見学等。

・財団法人 東京交響楽団:7月(2名)

東京オペラシティシリーズ、モーツァルト・マティネ、新潟定期演奏会、六本木男声合唱倶楽部等でのステージ・マネジメント。事務所(ミューザ川崎)見学、リハーサル(大久保)見学等。

・Sony Music Foundation :10月(1名)

第 10 回国際オーボエコンクール・軽井沢(大賀ホール)における運営実習と見学。

・ヤマハミュージック関東 新潟店:9月(5名)

楽譜、楽器関係の販売業務、音楽教室の見学、運営等(ヤマハミュージック関東・新潟)」

○企業等インターンシップ ――学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

①平成24年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成24年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：石山【2】、中央【2】、曾野木【1】、坂井輪【2】

新潟県立生涯学習推進センター【1】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

②報告書

『平成24年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成25年2月28日）110部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め、実際に行う際の参考にさせています。

2.9 各課程の特色ある教育活動

○ 国語教育講座の活動

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会

① 新潟大学教育学部国語国文学会平成 24 年度研究大会

- i 日時：平成 25 年 2 月 2 日（土）13：30～17：00
- ii 場所：新潟大学教育学部 B 棟 105 講義室
- iii 内容：

- ・研究発表

末広鉄腸『政事小説 花間鶯』論

神戸大学大学院人文学研究科 松永 大貴

学習者の相互交流が特定の読解方略の伸長に及ぼす効果—「関連づける」方略の伸長を図った『舞姫』の授業実践を基に—

新潟県立新潟高等学校 峰本 義明

- ・講演

インターネットを利用して現代日本語を調べる—母語を見つめなおす—手法としての提案—

新潟大学教育学部 岡田 祥平

- ・総会

○ 自然情報講座の活動

(1) 特色ある教員養成

i) 新潟市立総合教育センターとの連携

・市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

ii) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている土曜講座において、実験等を豊富にとり入れた理科授業を学生が行った。対象は中学 3 年生であり、4 回の授業（80 分×2 クラス）を行った。

2011 年 5 月 12 日（土） 物理
（なぜ夕焼けは赤いのか）

9 月 29 日（土） 化学（温度）

12 月 5 日（土） 生物（DNA の抽出）

2013 年 3 月 2 日（土） 地学（雲）



図 1 前線のモデル実験のようす

iii) 理科支援員等配置事業における小学校理科の支援

2009 年度から JST が実施している小学校 5,6 年生の理科授業の実験・観察を補助する理科支援員等配置事業において、計 4 名の理科の学生が新潟県、新潟市の小学校で理科支援員として活動した。

(2) 研究会の開催 (2013年3月16日(土))

明治中期「理科」・「科学」教育の実相・意義・源流

愛知, 福井, 埼玉, 東京, 群馬などから参加者が集まる予定である。

(3) 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

2008年度より長岡市立日吉小学校の科学クラブ(対象は小4~小6, 約20名)の支援を実施している。今年度は理科教育の3年生, 院生が中心になって実施した。

内容と実施日: ①夕焼け・虹の実験(11月14日), ②静電気(12月5日)

(4) 化学実験公開講座の開催 (2012年8月8日(水))

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学-21 化学への招待 一日体験化学教室」で, 教育学部の化学科教員2名および技官1名, 院生1名, 4年次学生4名が「発泡性入浴剤(バブ)を作ってみよう」, 「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ(全15テーマ)の講座を企画・実施した。この体験実験に参加した高校生は14名であった。

○芸術環境創造課程音楽表現コース

- (1) 新潟市西区役所と新潟県文化振興財団との連携により, 大学と地域連携プロジェクト「Lien 2012」を大学カリキュラム(「音楽マネジメント1, 2」並びに「課題研究」)の中で, マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われたこのプロジェクトは, 新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので, 最終年にあたる今年は23名の学生スタッフの発案・運営による5企画8公演が行われた。これらは, プロジェクトの核となる最終公演を中心に立案され, 学生たちの手によって運営されて, 教職員や地域の方々延べ1500人にご参加いただいた。

今年度の中心企画はアレッシオ・バックスによる演奏会(10月17日・新潟大学教育学部大講義室, 10月20日・西新潟市民会館)であり, ムソルグスキーの<展覧会の絵>を中心としたロシア音楽がプログラムだったため, 全体テーマとして「ロシア」を掲げた。そして, 関連企画としてニューヨークフィル ティーチング・アーティスト(以下「NYTA」)たちの方法論をさらに発展させた独自企画のコンサートを行った(6月23日・黒崎市民会館, 8月11日・黒崎市民会館, 9月15日・西新潟市民会館, 10月13日・黒崎市民会館, 学校でのワークショップ2回)。

関連企画には, 音楽科の教員を初め新潟市中心に広く演奏活動を続けている地元のアーティストたちが共演するコンサートを学生スタッフが企画運営した。これらの関連企画では, NYTAのコンサートで重要な核となる entry point を学生たちが応用し, 台本を含むすべての流れを制作し, 出演者への交渉・依頼などプロジェクト全体の運営を行った。また, 今年は新路線として, クラシック音楽とダンスのコラボレーションや, 電子楽器とアコースティック楽器のコラボレーションなども始めて行われ, 昨年度から引き継いだジャズ路線と共に大きな発展を見た。

このプロジェクトは, 2009年に6名のNYTA(と協力者)を新潟市(「りゅーとぴあ」劇場)と附属長岡小・中学校に招いて行われた交流コンサートを発展させたもので, 附属学校の生徒や父兄, 教育学部の教職員や学生, 並びに地域の方々1300名余りが彼らの方法論に触れて啓発を受けたところが原点となっている。詳細については, 横坂研究室ホームページ(<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>)に全体広報誌や各企画のチラシ, プログラム等が掲載されているので, そちらをご参照いただきたい。

- (2) 平成 24 年 12 月 1 日(土)に、新潟大学医歯学総合病院会議室において、教育学部音楽科授業「舞台芸術」及び「合唱」の授業成果発表を行った。

この企画は、入院患者さんに快適で潤いのある療養生活を提供したいという病院の意向と、日頃の授業等に成果を発表・披露する場を求めている学部の意向が一致して始められたもので、平成 17 年度初めて開催されて以来、今回が 8 回目の開催となった。

当日は患者さんやそのご家族など延べ約 100 人が来場して開催された。最初に音楽科混声合唱団によりアニメ映画音楽「もののけ姫、君をのせて、となりのトトロ、鉄腕アトム」が演奏され、その後キャスト、スタッフ総勢 28 人の学生によりオペレッタ『もも・はな・かぐ・さか物語』が公演された。プログラムの中にくみみんなで歌いましょう>ステージを設け、『もみじ』『ふるさと』を客席の皆さんと一緒に合唱した。会場は一緒に口ずさんで歌われた方がおられるなど、和やかな雰囲気になり、その後公演されたオペレッタの楽しい場面では客席から笑い声が聞こえたり、最後の場面では拍手の波が起きるなど、大変喜んでいただくことができた。

今回も来場者及び病院側のスタッフから喜びの言葉、感謝の言葉が寄せられ、学生達にとっても今後の活動を行う上で大きな励みとなった。

混声合唱



オペレッタ



- (3) 佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で 4 年目になる佐渡市豊岡地区祭り（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。祭りに先立って 3 月 27 日～3 月 31 日、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を傳承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。大学に戻り、祭礼の前日 4 月 14 日に再度佐渡入りをし、地元の方々と共に祭礼の準備にあたった。例年、祭礼は 4 月の第 2 日曜であるが、今年は選挙と重なったため第 3 日曜に設定された。佐渡では 14 日、15 日は多く



の地区で祭りがあり、春日地区など他地区の祭礼にも参加出来た。この成果はサスケハナ大学の学生が新潟を訪れたとき、ワークショップとして披露することができた。また、12月には佐渡市とNPO法人佐渡芸能伝承機構主催によって「豊岡集落と新潟大学地域活動報告会～笑顔で暮らせる地域の為に～」と題された公開シンポジウムが催された。



(4) 村上市立西神納小学校訪問演奏

9月4日、村上市立西神納小学校に訪問演奏に向いた。これはコレgium、音楽教育入門の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30数名で行ったものであり、今年も好評を博した。



○芸術環境創造課程書表現コース

<2012年度 書表現コース特色ある教育活動>

授業の研究成果を学外で発表すべく、新潟市内で次の書道展を開催した。

- 東日本出身者有志による「芙蓉会書展」
- 西日本出身者有志による「驥鳳会書展」
- 第2学年による「陽学年展」
- 1年生から院生まで在校生全員による「書道科展」
- 卒業生・修了生による「卒業・修了制作展」

以上は学生が主体的に何を書くのか素材を選び表現法を決定し、畳6枚以上の大作を制作し発表するもの。

それらの表具、広報活動、搬入、飾りつけなど一切を学生たちが力を合わせ行うことが伝統的な特色である。教員は批評会に加わり、各書展に賛助出品を行った。一般の美術愛好家、書家そして卒業生など多くの方が来場下さり、学生の励みになっている。

この他特色ある行事として夏季休業中に越後湯沢で錬成会を行った。約40名学生が参加し、専任教員及び外部から招へいた講師による指導が行われた。

またオープンキャンパスでは、大広間を会場として学生が主催して体験書作会が行われた。この来場者の中から実際、本コースの受験生がたくさん出ていることに注目したい。

新潟大学ウィークの期間中には、パフォーマンス書作会を教育学部玄関前で数回行い、多数の見学者があった。

授業の一環として、例えば「地域芸術実践」では、地域の人々と企画展を立案し、書を専攻するものとして更に新たな視野の拡大を図ることを目標とした。



書道科展会場風景



錬成会風景



教育学部玄関前での書道パフォーマンス

○生活科学課程新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)開発への試行協力

平成19年度より導入された主専攻プログラム制度の枠組に基づいて、学士課程教育の実質化を目指したアセスメントシステム(NBAS)の開発について、本課程は平成22年度から教育・学生支援機構の依頼を受け試行への協力を続けている。

NBASの概要は、①可視化された学習過程に基づいて学習者自らが到達度を把握し、②学習過程の記録を活用した省察により自らの学習に意味を見つけ、次の学習をデザインすることを目指している。平成25年度からの先行運用実施を目指し、今年度までに「学習過程の可視化」について生活科学主専攻プログラムで作成したカリキュラムマップに記載された到達目標個々の改訂を行い、それぞれに重みづけを施す作業を完成させた。これに並行して、カリキュラムマップの重みづけ作業を通じた授業科目の系統性に関する検討を教科内FDにて継続・反復して行った。

さらに今年度は検討内容の検証へとフェーズを進め、所属初年次学生に対し、NBAS利用の導入としての授業科目「生活科学総合演習」を新規に開講した。本授業科目は、①主専攻プログラムのカリキュラム内容の理解、②学習過程の記録を蓄積・整理し、学生個々が身につけた知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的能力について省察することの意義と方法の習得(リフレクションデザインと呼称)を目的とし、所属する1年次学生への学びに対する動機づけについて、課題は多く残るものの相応の成果を得られた。

また「学習過程の記録」については、講義、実験、実習、演習と多様な授業型式をとる本課程のカリキュラムで提供される学習資料および学生の作成した製作物、レポート等の提出物を電子データに変換したeポートフォリオシステムを援用して行った。来年度から稼働するNBASでの実装を想定して、今年度は高い閲覧性と記述性を有するクラウドコンピューティングを利用し、学生個々の学習への振り返りに資する学習記録の蓄積・整理を行った。

○芸術環境創造課程造形表現コース，学校教育課程美術教育専修

(1) 2000年から新潟市西区との連携事業により、人々が日常の生活を営んでいる街中での芸術表現の新たな可能性を示す取り組みとして、アートプロジェクト「Art Crossing Niigata」の活動を進めている。我々は芸術表現の検証の場として、街側としては地域コミュニティの活性化という目的があり、街との相互関係の築きの中で講座内の様々な専攻が一体となって進めている取り組みである。組織としては、実行委員会形式として講座内に窓口を設け、企画、運営、広報、マネジメント全般を教員7名、専攻学生60名程、地域住民のサポートメンバ10名程で展開している。

また、「Art Crossing Niigata」以外にも、新潟市における大きなアートイベントにおいて、舞台制作や造形ワークショップなど、社会の中での活動を推し進めている。

① Art Crossing Niigata 「いてえもん物語」(9月29日～10月8日)

廃校となった木造校舎(旧板井小学校)を会場として解体前の記念イベントを板井地区住民と共に築いたアートプロジェクト。



② 日本海夕日コンサート2012(8月4日)

ステージの舞台演出のデザイン制作及び参加アーティストのイメージビデオの編集を行った。



③ 水と土の芸術祭2012(7月14日～12月24日)

「みずつち こどもプロジェクト」で20のワークショップ、オブジェ制作、つながり円柱画の制作を行うなど中心的な役割を担った。



(2) 古美術研修旅行 地域美術論・地域芸術研究（ハンガリー、オーストリア、チェコ）

芸術の多様性について学ぶため、下記の日程で研修旅行を毎年3年次の学生を対象として企画運営している。

【実施内容】

日 程 表				
年月日	発着地名（国名）	訪問先	滞在日数	用務
平成 24 年 11 月 28 日	新潟、成田空港発 同日 ウイーン経由 ハンガリーブダペスト着			
11 月 29 日		ブダペスト	1 日	マーチャーシュ教会、 応用美術館、国立美術館 等研修
11 月 30 日		ウィーンに移動	1 日	途中パンノンハルマ修道 院等研修
12 月 1 日～ 2 日		ウィーン	2 日	美術史美術館、19 世紀・ 20 世紀美術館、レオポル ト美術館等研修
12 月 3 日		チェコ共和国、チェ スキークロムルフに 移動	1 日	途中デコルンシュタイン 修道院見学、チェスキー クロムルフ城等見学
12 月 4 日		プラハに移動	1 日	途中クトナーホラ聖バル ボラ教会等見学
12 月 5 日		プラハ	1 日	国立美術館、イジー教会、 KAMPA 美術館等研修
12 月 6 日	チェコ、プラハ発ウイ ーン経由			
12 月 7 日	成田着、同日新潟着			

【成果】

クリムト生誕 100 周年に合わせて、様々な展覧会が企画されているウィーンを中心に研修を行ったため、作品自体の鑑賞方法にも思考が凝らした展示形態のものが多く、個々の学生の描写表現の考察や、展示方法の在り方などの多様性の理解に、一定の効果があつた。また、新潟にゆかりのある美術留学生と、交流の場を設けたため、美術そ

のものの価値の多様性について、考察する機会が得られた。



○学校教員養成課程保健体育専修・健康スポーツ科学課程・養護教諭特別別科

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports For P.E.A.C.E.～（平成22年度より継続）

平成 24 年度新潟大学組織的教育プロジェクト（新潟大学GP）

本プロジェクトでは、新潟という地域性を活かし、アジア（まずは環日本海、日中韓の3カ国）の大学間でのスポーツ活動に関わる交流を実施し、それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより交流イベントを学生自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深め学士力を高めることを狙いとしました。

<取組の具体的な目的>

- (1) 大学を中心とした地域社会で行っているスポーツ活動について、スポーツを通して交流し、諸外国と比較してグローバルな視野を育成
- (2) 教員間の交流により、双方の授業の在り方について情報交換、比較検討し、魅力ある授業科目の開講
(教員の職能開発)
- (3) 学士課程専門教育における開設科目について体系的、総合的に応用して双方における優れた点の共有化
(教育課程の体系化)
- (4) インターネットを活用した日常的な交流を通し、デジタル映像の活用やPCの利用によってこれらのIT技術をスポーツの中に取り入れるアイデアを培いそのテクニックの習得
(教育方法の改善)
- (5) 英語や他国言語を用いて異文化との交流を行うことにより、生きた語学学習に結びつけていくとともにコミュニケーションスキルの習得
(教育課程の体系化)
- (6) 各国各大学の得意種目における競技力向上のシステムを共有することによる競技力向上
- (7) 各国各大学の地域産業や地域住民との関わりに関する活動を相互に検討しながら地域と共にスポーツが活性化される

手段の確立

本プロジェクトのコンセプト



(平成24年度プロジェクト報告書より抜粋)

<平成24年度の主な取組内容および成果>

(1) 哈爾濱商業大学60周年記念行事参加及出前授業（哈爾濱商業大学体育学院教室）

2012年は交流先である哈爾濱商業大学の60周年にあたる年であり、本学より西村伸也副学長および五十嵐久人教授が創立60周年記念への敬意を表し出席した。記念行事は9月7、8日の2日間開催され、7日午後には五十嵐教授より「アジア大学スポーツ交流プロジェクト～Sports for P.E.A.C.E.～」についての特別講義を実施した。聴衆

者は教員および学生合わせ約 100 名であり、講義（プロジェクトの主旨・目的、スポーツの意義等）の後に、活発な質疑応答が行われる等、本プロジェクトをさらに理解頂く大変有意義な講義および異文化交流の時間を過ごした。

（2） スポーツ（テニス）交流イベント in 漢陽大学（韓国） 平成24年10月23日～26日

滞在2,3日目にテニス国際交流戦を行った。また、技術講習というものも開き、お互いに技術や意識など様々な観点から、テニスを見ることも行った。日本からは計5人の選手が出場した。観戦した国際交流委員の学生からは、「はじめは各国でかたまってしまい、思うようにコミュニケーションがとれず困っている選手が多く見受けられた。しかし、いざコートに立つとどの選手も真剣な面持ちで、どんな国の人でもスポーツへ向かう姿勢は同じなのだと感じた。試合が始まってからの選手達の表情や仕草は他国と交流していると思えないほど楽しそうで、積極的に見えた。」との感想が聞かれ、本プロジェクトの意義の一つの側面が見られた。



（3） アカデミック交流イベント（漢陽大学キャンパス内教室） 平成24年10月25日

滞在3日目の午後には、日本主催でスポーツについての討論会を行った。この討論会を行った主旨としては、国を越えて互いにスポーツに向かう姿勢を確認し、今後のプロジェクトの発展に繋げるためであった。大学・国家間での様々な違いを認識しながらも、スポーツ選手や体育スポーツ専門学生として多くの共通点（文武両道の重要性、スポーツ環境充実への願いなど）を理解する機会となった。会の最後には、本プロジェクトの今後の方向性についても話し合わせ、多くの成果と課題を把握する良い機会となった。

（4） 国立台湾師範大学との交流に向けた取り組み 平成25年2月5日～8日

これまでに新潟大学（日本）、哈爾濱商業大学（中国）、漢陽大学（韓国）の3大学における連携・交流プロジェクトを進め、多くの成果を得てきた。最終年度を迎えた本年度はこうした成果をさらに拡大し、アジアの大学スポーツ交流の輪を広げていくことを1つの課題として見据えながら、国立台湾師範大学（台湾）との連携に向けた準備に取り掛かった。学部間協定締結（平成25年度内を目標）に向けての議論を行い、課題の把握を行なうことが出来た。また、先方大学の教育・スポーツ関連施設を見学・調査した結果、ハード面・ソフト面の両面にわたって充実していることを確認することができた。

（5） P.E.A.C.E. プロジェクト報告会 平成25年3月4日

これまでの3年間のプロジェクトについての報告会を開催した。出席者は保健体育・スポーツ科学講座教員10名、学生会学生約100名であった。また、外部評価委員としてアジア大学スポーツ連盟事務局長のKenny Chow氏、新潟市体育協会専務理事の渡辺茂氏、新潟県体育協会常務理事の萬歳憲重氏、の3名にもご出席頂いた。全てのプログラム（各報告、基調講演、質疑応答など）を英語で実施した。3年間の取組の中で常に課題だった共通言語について、まずはこの報告会から英語をベースとして始められたことは大きな成果であった。



（6） 評価委員による本プロジェクトの評価について

主な審査項目は、大学間の国際交流、スポーツ活動を通じた国際交流、各年度に実施したプロジェクト、学生及び教員の企画によるアカデミックイベント、プロジェクトを通じた学士力の向上、テレビ会議システムの活用等に関するものであった。すべての項目で8割以上の得点を得られた。また、各委員からのコメントにおいても、本プロジェクトに対する好評価や今後の更なる発展への期待が示された。

○ おわりに

今後は、大学間のネットワークを強化するとともに、3年間で構築した基盤を軸にして、さらなる学生の主体的な取組みによるスポーツ国際交流事業の発展につなげていきたい。

（文責 大庭昌昭・五十嵐久人）

2.10 高校生対象体験講義

平成24年9月15日(土)

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	中村和吉	173
漢字に見える中国の歴史	富田健之	
画像情報のデジタル化とその仕組み	田中 環 (理学部数学科)	
相互関係をネットワーク思考で考えよう	垣水 修	
DNAから見えてきた植物の新しい系統進化	志賀 隆	
現代日本語に観察される多様性	岡田 祥平	
バーコードの数学	竹内 照雄 (理学部数学科)	
私たちの暮らしを支える界面科学	中村和吉	
パフォーマンス改善とトレーニング科学	山崎 健	

2.11 中・高校生及び保護者の大学見学

本学部では、今後も積極的に高校生等への説明会を開催するとともに、より身近に学部を感じてもらえるような新たな企画を設定し、優秀な人材の獲得に全力を注いでいこうと考えており、近年は大学から高校へ講師を派遣する「出前講義」も行っている。

見学校	対象者等	開催日	担当者
小千谷高校	2年50名	7月12日	有川 宏幸
山形県立長井高校	2年26名	6月8日	柳沼 宏寿
栃木県立足利高校	1年50名	7月23日	小林 日出至郎
十日町高校	1年63名 1年84名	8月22日	高橋桂子 高木幸子
福島県立安積黎明高校PTA	18名	7月10日	児玉 康弘
十日町総合高校	1年40名	7月17日	堀広報委員長
新発田南高校	1年49名	7月13日	岡村 浩
国際情報高校	1年38名	8月21日	荒木 一郎
長岡向陵高校	2年59名	7月24日	相庭 和彦
ジャパンサッカーカレッジ	3年生 31名	6月6日	森 恭
附属新潟中学校	2年120名	7月11日	五十嵐学部長 鶴田 一雄
埼玉県高等学校PTA連合会 西部支部	38名	10月22日	堀広報委員長
北越高校	2年79名	10月2日	山崎 健 八坂 剛史
附属長岡中学校	1年120名	11月9日	五十嵐学部長 森下 修次, 山田 和美

3. 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、教員採用検査特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～を実施した。

講師は、全学教職支援センターの杉浦隆夫客員教授、高野榮特任教授、杉中宏特任教授である。

(1) 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

(2) 実施内容

① 前期分

対象学生：学部4年生、大学院生、養護教諭特別別科生、新潟大学の卒業生

開講時間：16:25～17:55、場所：204 教室

(ただし、第2回は15:30～17:00、第11回は9:00～12:00)

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	4月19日(木)	特別講座・教員採用検査についてのガイダンス	岸本(元)全学教職支援センター客員教授 杉浦・高野・杉中
2	5月10日(木)	教員採用検査についての説明 (新潟県教委・新潟市教委からの説明)	杉浦・高野
3	5月24日(木)	筆答検査問題対策	高野・杉中
4	5月31日(木)	個人・集団面接、模擬授業の講義・演習	杉浦
5	6月21日(木)	個人・集団面接、模擬授業の演習(個人指導)	高野・杉中
6	6月28日(木)	第1次検査へのまとめ心得1	杉浦
7	7月5日(木)	第1次検査へのまとめ心得2	杉浦・高野・杉中
8	7月12日(木)	第1次検査の反芻と第2次検査のガイダンス	杉浦・杉中
9	7月19日(木)	第2次検査に向けての対策	杉浦・高野・杉中
10	7月26日(木)	第2次検査に向けての対策	杉浦・高野・杉中
11	8月7日(火)	第2次検査に向けての直前対策	杉浦・高野・杉中
12	11月7日(水)	臨時教員採用希望者への指導・助言	杉中
13	11月16日(金)	採用候補者への指導・助言	杉浦

② 後期分

主たる対象学生：学部3年生、大学院1年生 開講時間：16:25～17:55、場所：204 教室

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月11日(木)	特別講座のガイダンス・教員採用検査に向けての心構え	杉浦・高野・杉中
2	10月18日(木)	新学習指導要領について	杉浦・高野・杉中
3	11月8日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて	新潟市教育委員会学校支援課 齋藤指導主事
4	11月15日(木)	採用検査に向けた指導Ⅰ	杉浦・高野・杉中
5	11月22日(木)	採用検査に向けた指導Ⅱ	杉浦・高野・杉中
6	11月29日(木)	学校現場が期待する教師像	新潟市立巻北小学校遠藤校長
7	12月13日(木)	採用検査に向けた指導Ⅲ	杉浦・高野・杉中
8	1月10日(木)	採用検査の実際と体験発表 (採用内定学生・新採用教員)	杉浦・高野・杉中
9	1月17日(木)	教育行政が期待する教師像	新潟市教育委員会教職員課 高居課長
10	1月24日(木)	本講座のまとめと次年度特別講座に向けて	杉浦・高野・杉中

3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを新設し、下記の取り組みを行った。

(1) 教員採用試験対策支援プログラム (H25.4 採用者向け)

① 小論文指導

平成 24 年 6 月 28 日 (木) 4 限，教育学部大講義室において，教員採用試験受験者を対象とした「小論文指導」を開催した。

参加者は 176 人で，小久保美子教授（国語科）指導のもと，教員採用試験における小論文対策講義を行った。参加者からは，「教員採用試験ですぐに役立つ内容だった」，「実践的な内容が多く有意義だった」など好評であった。



② 模擬授業

教員採用試験受験者を対象とした「模擬授業」を行った。実施日程は，6 月 27 日～28 日，7 月 2 日～5 日，8 月 7 日の 7 日間で，延べ 265 人の学生が参加した。

6～7 月は主に新潟市教員採用試験受験者向け，8 月は主に新潟県教員採用試験受験者向けとし，高木幸子教授・佐藤佐敏准教授を中心に，学部教員や現職教員（派遣大学院生）などの協力を得て実施した。

実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し，参加者との質疑討論の後，教員等からアドバイスを受けた。

参加者からは，「多くの授業パターンを見ることができ自分のストックになった」，「試験本番に似た緊張感を味わうことができた」，「さまざまな方と意見交換ができ刺激になった」など，大変好評であった。



③ 面接・場面指導

平成 24 年 8 月 1 日（水）2 限，教員採用試験受験者を対象とした「面接・場面指導」対策講義を行った。

参加者は 63 人で，鈴木賢治副学部長をはじめ，伊野義博教授，高木幸子教授，佐藤佐敏准教授が面接官役となり，学生代表者 3 名と実際の教員採用試験を想定した面接・場面指導を行った。

参加者からは，「他者の様子を見て，良い点，悪い点がよくわかった」，「代表者の面接を見たうえで，教員から対応方法が聞けたことがよかった」など，二次試験の面接に向けたイメージ作りに効果的だったようである。



④ 体育実技練習会（器械運動）

5 月 25 日から 7 月 27 日の毎週金曜日，第二体育館において「教員採用選考検査対策（体育実技）練習会」を開催した。

参加者は約 30 名で，五十嵐久人教授指導のもと，教員採用試験の実技科目（マット運動・鉄棒など）について，実践的な指導が行われた。

参加者からは，「うまくできるコツがつかめた」など好評であった。



⑤ 体育実技練習会（ダンス）

毎週木曜日 2 限，第二体育館において「教員採用選考検査対策（体育実技・ダンス）練習会」を開催した。

滝澤かほる教授指導のもと，教員採用試験の実技科目（ダンス）について指導が行われた。



(2) 教員採用試験対策支援プログラム（H26.4 採用者向け）

① 合格者体験発表

平成 24 年 12 月 6 日（木）5 限，次年度教員採用試験受験者を対象とした「合格者体験発表」を行った。参加者は 42 人。

前半は，今年度教員採用試験に合格を果たした先輩 4 名が自らの体験談を発表し，後半は，質問タイムとして，校種ごとに教室を分かれ，後輩たちから寄せられた様々な質問に答えた。

質問タイムでは，勉強法やちょっとしたコツなど具体的なアドバイスのほか，大変だったことや複数の自治体の教員採用試験を受けるメリットなど，疑問解決に向けた意見交換が行われ，参加者からは，「合格者の本音や試験の実態がよくわかった」，「先輩の話聞き，やるべきことが見えてきた」などの感想が寄せられた。



② 教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成 25 年 1 月 29 日（火）5 限，時事通信出版局から講師を招き，教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は約 150 人。

教員採用試験の最新動向と対策，過去問の分析方法と活用法，最新教育時事の傾向と対策について，今年度実施した教員採用試験の分析結果や今般の情勢を踏まえ，わかりやすく講演していただいた。

また，参加学生から事前に集約した質問事項についても，丁寧に回答をいただいた。参加者からは，「具体的でわかりやすかった」，「多くの情報を得ることができた」，「教採に向けて何に取り組むべきか明確になった」などの感想が寄せられた。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

2年次生向けキャリア支援ガイダンス

9月28日（金）15:00～16:00に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、観察参加実習を振り返って、教員という職業について、教員採用検査の流れを中心にキャリア支援のガイダンスを行った。参加者は244人。

参加した学生は、観察参加実習を振り返り、自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

(1) 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成24年11月19日、企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。参加者は約50人。

講座では、内定者4名による具体的な就活体験談とキャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では、企業就職を果たした内定者2名からは、就職した企業を志望した理由や就職活動の期間が実質短くなったことを踏まえた具体的な活動の時期や内容について、公務員就職を果たした内定者2名からは、試験勉強の方法や対策、教員採用検査受験・一般企業就活との並行についてのアドバイスなどが発表された。

続いてキャリアコンサルタントより、教育学部生の進路状況やキャリアセンターの活動についての紹介、自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスをいただいた。

参加者からは、「身近な先輩の話を聞いて就活の流れ・対策がよくわかった」「自分の進路についてのビジョンが明確になった」「学内のサービスを利用しようという意欲が湧いた」などの意見ほか、「自分が何をすべきか今後の見通しができた」との声が多く寄せられた。



(2) 就職何でも相談会

11月～12月、「就職何でも相談会」を開催した。このセミナーは、まだ就職の決まっていない、進路に迷っている4年次生を主な対象として、進路や就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。

キャリアセンター特任専門職員佐藤芳子さん（キャリアコンサルタント）と学部教員が連携しサポートにあたった。

3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

(1) 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」

日時：平成 24 年 11 月 7 日（水）16:25～17:55

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、杉中宏全学教職支援センター特任教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

(2) 平成 25 年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数 84 名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の 19 自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会および県外 9 自治体教育委員会（石川県・富山県・秋田県・宮城県・福島県・山形県・埼玉県・長野県・群馬県）へは、教職課程支援部門長（教育学部教授）等が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪 問 先	期 日	担 当 者	
		教 員	事務職員
新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 下越教育事務所	1 月 11 日(金)	杉浦客員教授 杉中特任教授	—
中越教育事務所 上越教育事務所	1 月 11 日(金)	宮菌教授 (教職課程支援部門長) 高野特任教授	佐藤全学教職支援事 務室教職支援係長

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

(1) 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

9月30日に次年度教員採用試験の受験予定者を対象にガイダンスを開催した。教員として働いている先輩方の体験発表および教職指導担当教員委等より教員採用の状況、教員採用試験のための準備対策等についてのガイダンスを行った。参加者は185名（他学部参加者を含む）。

参加者からは、「具体的な体験談が聞けて参加してよかった」「教育学部以外の学生にとっても貴重な情報提供の場であった」「必ず教師になりたいと思った」など概ね好評であり、現場で活躍する先輩方の話を聞く機会を今後も継続・増やしていきたい。

ガイダンス後は「教員採用検査特別講座」の履修希望者の申込者数が大幅に増加する等、教員を目指し積極的に行動していこうとする姿が感じられた。



(2) 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成24年4月26日、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。参加者は169人。

ガイダンスでは、五十嵐学部長のあいさつの後、現職教員より実体験を踏まえた講演、佐藤佐敏准教授より教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意など、具体的なアドバイスが行われた。閉会にあたっては、加藤就職厚生委員長より激励の言葉が贈られた。

参加者からは「実際に教員経験された話は現実味があり、とても参考になった」「教員になろうという思いを再確認できた」「モチベーションが上がった」などの感想が寄せられ、教員採用検査に向け決意を新たにされた。

3.7 教員採用・就職活動バス支援

教員採用及び就職活動支援として、本学部独自で「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」、「教採バスツアーin 東京」、「東京学校見学バスツアー参加支援」を行った。

(1) 愛知・名古屋への教採・就活バス支援

平成 24 年 7 月 20 日～22 日、教員採用検査で新潟県等と併願が可能な愛知県・名古屋市をメインとしたバス支援を行った。参加者は、鈴木副学部長と事務職員 1 名を加えた 27 名。

結果は、二次合格者 5 名。昨年度の二次合格者 4 名に比べ、1 人増となった。新潟県・新潟市の二次試験日と重複したため愛知県の二次試験を辞退した者もあったものの、参加者・合格者が増加したことは、本バス支援が学生間で定着し、早期から愛知方面を視野に入れた準備ができたことによるものと思われる。

参加者からは、複数受験を考えるきっかけとなった、受験生のチャンスを増やす良い企画である、バス支援があったから愛知県を受験することに決めた、併願ができることで安心した、資金面で大変助かったなどの感想が寄せられた。

愛知県教育委員会は、新潟大学教育学部において教員採用検査の説明会を実施するなど、新潟大学教育学部への期待が高まっていると。



(2) 教採バスツアーin 東京

平成 24 年 7 月 7 日（土）～9 日（月）、今年度初の試みとして、教員採用数の多い東京方面に向けた教員採用検査受験のためのバス支援を行った。参加者は、鶴田副学部長と事務職員 1 名を加えた 20 名。

試験会場には、非常に多くの受験者が集まり、新規教員を多く必要としていることを実感した。

結果は、二次合格者 5 名。バス支援参加者の約 3 割が二次合格を勝ち取った。参加者からは、経済的にとても助かった、仲間と一緒に安心できたなどの感想が寄せられた。



都市部では、団塊世代の大量退職期を迎え、新潟県など地方部に比べると数倍の新規教員を採用している。また、新潟県、新潟市ともに、教職経験者の一次試験免除などの特別選考制度を設けている。

教員採用数の多い地域で正規教員としての経験を積み、地元に戻るといった選択肢もある。多くの同期採用者がいるということは心強いことなのではないだろうか。

教育学部は、多くの皆さんが教員の夢を叶えられるよう、今後もこのような支援を積極的に実施していく。

(3) 東京学校見学バスツアー参加支援

東京都教育委員会が主催する「東京の学校見学バスツアー」参加のための支援（交通費補助）を行った。平成23年度はバスを借り上げ、特定のツアーに参加する形態であったが、今年度は交通費補助の形態に変更し、自由度の高い支援に変更した。

参加者は3名（3年次生：3名）。参加した学生からは「東京の学校に対する考えが変わった。とてもよかった。」などの感想が寄せられた。

参加者が少数であったが、参加した学生からぜひほかの学生に勧めたいとの声もあり、来年度も継続して実施する予定である。

3.8 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページに就職情報ページを作成しています。

教員や公務員，一般企業への就職を希望する学生向けに，教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘訣など，教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページ URL :

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo, the name '教育学部' (Faculty of Education), and 'FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY'. A search bar is located in the top right. Below the header is a navigation menu with icons for Home, Applicants, Current Students, School/Related, Graduates, and Intra-departmental Information. The main content area is titled '就職情報' (Job Information) and features several sections: '就職実績' (Job Performance) with links to graduate employment status, industry-specific trends, and main employment destinations; '就職にむけて' (Towards Employment) with links for faculty recruitment, general companies/public servants, and starting points; '就職体験記' (Job Experience Stories) with links for 2012, 2011, and 2010; and '就職支援活動' (Job Support Activities) with links for faculty recruitment, special lectures, and support programs. A sidebar on the right contains promotional banners for '塩野文庫' (Shiono Bunko), a 60th anniversary photo album, and departmental information. The footer contains contact information and a note about site management.

4. 平成 24 年度 学部FD・SD

第 1 回 連続セミナー 1st

日時 2012 年 4 月 26 日 (木) 16 時 30 分～17 時 30 分

会場 大会議室

- ・「ある破壊力学屋の研究遍歴」 鈴木賢治
- ・「中国での調査旅行」 鶴田一雄

第 2 回

日時 2012 年 4 月 27 日 (金) 16 時 30 分～18 時 00 分

会場 204 講義室

テーマ フィンランドの学校教育

講師 タピオ・ヌミ (Tapio Nummi) 氏 (ポリ教育工学センター長)

第 3 回

7 月 12 日 教科専門エッセンシャルズ (社会, 理科, 体育)

1. 「火山の学習に必要なエッセンシャルズ」 藤林紀枝
2. 「陸上競技のエッセンシャルズ試論」 山崎 健
3. 「社会科としてのエッセンシャルズの展開---社会の学び方」 宮菌 衛

第 4 回

とき 9 月 13 日 午後 2 時から

場所 大会議室

内容 平成 25 年度科学研究費助成事業応募について

第 5 回

とき 10 月 12 日 (金) 午後 4 時半から

場所 大会議室

内容 教員養成のミッションの再定義とカリキュラム改革について

第 6 回

11/15 (木)、教育学部大講義室

講演 これからの科学教育

講師：益川敏英 (名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長)：

第 7 回 連続セミナー2

とき 11 月 29 日 午後 2 時から午後 3 時まで

場所 大会議室

内容 連続セミナー

岡野 勉「教育内容史研究の課題と方法－明治検定期算術教科書における分数論に注目して」

小堀彩子「臨床心理学の実践と研究」

第8回

とき 12月20日(木) 16:30-18:00

場所 教育学部 204 講義室

演題 「フィンランドの教員養成について」

講師リーッタ・アサンティ (Dr Riitta Asanti)、通訳 加藤茂夫

第9回教育学部FD

「いじめ・不登校と子どもの人権－教師はなにをすべきか」

講師 亀山 裕 (元新潟県教員), 西 伸之 (早通中学校教員)

とき 1月24日(木) 16:30-18:00

場所 教育学部 204 講義室

5. 地域貢献

5.1 市民・教員を対象とした公開講座

○新潟大学新潟駅南キャンパス(通称:ときめいと)等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、「ときめいと」や教育学部校舎等を使用して様々な講座を開講し、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

親子で楽しめるリズム体操、発表会が楽しい合唱講座など、本学部ならではの講座等を開設した。

以下に、今年度の実施状況を示す。

新潟大学新潟駅南キャンパス(ときめいと)等開設公開講座一覧

講 座 名	
一 般 教 養 講 座	大人のための合唱講座～世界の名曲を原語で歌ってみませんか～
	親子でとりくむ楽しいリズム体操
	遊ぶ力は生きる力～子どもの体力向上支援ワークショップ～
	第8回ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	卓球教室

5.2 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・ 新潟県教育委員会との教育懇談会（連携推進協議会）

平成 23 年 4 月に締結した連携協定にもとづき、平成 24 年 8 月 27 日「平成 24 年度 新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会」を開催した。

「新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携の在り方及び今後の課題について」、「中央教育審議会『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申（案））』について」など活発な情報・意見交換を行うとともに、連携事業の検証やさらなる連携の可能性について、報告及び検討を行った。

・ 新潟市教育委員会との教育懇談会

平成 24 年 12 月 19 日、新潟市教育委員会と 5 回目となる教育懇談会を開催した。

「新潟市が期待する教員の資質・能力について」、「教員採用の方針について」、「新潟県教員採用検査の動向と優秀な人材を教員として確保するための新たな方策について」「中央教育審議会『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）』について」、「学習支援ボランティア実施関係について」など活発な情報・意見交換を行った。

・ 見附市教育委員会との連携事業

平成 17 年 3 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内すべての小中学校及び特別支援学校（小学校 8 校、中学校 4 校、特別支援学校 1 校）に学習支援（自然教室、水泳教室、補充学習、部活動指導、実験、工作教室）のためのボランティアを 41 人（延べ 102 人）派遣した。

また、見附市の「学力向上推進事業」に係る学習支援及び校内研修指導等が行われた。

・ 三条市教育委員会との連携事業

平成 17 年 8 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小中学校 3 校、中学校 2 校）」へ 5 人、「三条市科学フェスティバル」へ 12 人、「中学校音楽祭」へ 3 人、「放課後子ども教室」へ 4 人を派遣した。

また、三条市教育委員会と 5 回目となる運営協議会（H24.11.20）を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

・ 燕市教育委員会との連携事業

平成 23 年 3 月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」の募集を新たに行った。結果、市内小学校 2 校、中学校 4 校に 10 人（延べ 43 人）のボランティアを派遣した。

5.3 新潟大学免許法認定公開講座

平成24年度の実施状況は、以下の表の通りである。

平成24年度 新潟大学免許法認定公開講座日程表・実施状況						
科目名	キャリア教育特論	学校臨床心理学特論Ⅶ	社会科教育特論	運動学特論	算数・数学科教育特論	
実施日程	8月11日(土), 12日(日)	8月20日(月), 21日(火)	8月27日(月), 28日(火)	9月1日(土), 2日(日)	9月22日(土), 23日(日)	
	8月29日(水), 30日(日)	8月22日(水), 23日(木)	10月27日(水), 28日(日)	9月8日(土), 9日(日)	9月29日(水), 30日(日)	
担当講師	松井 賢二 (教育学部教授)	神村 栄一 (教育学部教授)	宮菌 衛 (教育学部教授) 岡村 光展 (教育学部教授) 内田 健 (教育学部准教授)	五十嵐 久人 (教育学部教授) 村山 敏夫 (教育学部准教授)	山田和美 (教育学部教授) 阿部好貴 (教育学部准教授)	申込者数 合計
受講者数	3	10	6	6	4	29

5.4 主な委員就任状況

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県国土利用計画審議会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県技術振興委員会委員』
- 『新潟県子どもの体力向上支援委員』
- 『新潟県健康づくり推進対策懇談会委員』
- 『新潟県キャリア教育推進会議』
- 『地域に根ざすキャリア教育推進会議』
- 『新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査研究事業スーパーバイザー』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会委員』
- 『特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『発達障害等定期ケース会議委員』
- 『平成24年度文部科学省新規事業「英語力を強化する指導改善の取組」運営指導委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市文化財保護審議会委員』
- 『新潟市景観アドバイザー』
- 『就学指導委員会委員』
- 『新潟市特別教育サポートセンター専門家チーム委員』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市西区自治協議会委員』
- 『水と土の芸術祭実行委員会企画部会委員』
- 『第4期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『政令市にいがたのあり方検討委員会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

三条市教育委員会

『三条市（仮称）第一中学校区統合小学校校名等制定委員会委員』

燕市教育委員会

『ICT活用普及促進協議会委員』

糸魚川市教育委員会

『小滝川硬玉産地保存対策調査委員会委員』

文部科学省

『科学技術・学術審議会臨時委員』

『科学技術・学術審議会専門委員』

国土交通省

『九州地区治水地形判定委員会委員』

内閣府

『雇用戦略対話ワーキンググループ委員』

『広域的な火山防災対策に係る検討会委員』

上越教育大学

『上越教育大学 CST 養成事業実施委員会委員』

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

『「子どもの読書活動と人材育成に関する調査」に係る研究会委員』

独立行政法人 国立女性教育会館

『女子中高生夏の学校 2012 企画委員』

社会福祉法人 輝風会

『理事』『評議員』

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
『新潟県高齢者大学運営委員会委員』

財団法人 會津八一記念館
『評議員』

財団法人 健康・体力づくり事業財団
『日本公衆衛生学会助成事業に係る委員』

全国健康保険協会新潟支部
『健康づくり推進協議会委員』

新潟県新聞活用教育推進協議会
『NIE 顧問』

東日本高速道路株式会社
『新潟ハイウェイ懇談会委員』

西日本高速道路株式会社
『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

本学部では、学習社会ネットワーク担当教員が中心となって中国との教育・研究交流を続け、今年度で交流事業も12年目になります。交流内容は、(1)短期間の中国訪問による教育交流、(2)交換留学制度を利用した半年あるいは一年間の留学、(3)教員が相互に相手方大学を訪問して出張講義と充実しています。

(1) 中国訪問による教育交流

今年度の教育交流事業は12月に行いました。参加したのは、日本からの学生10名、北京師範大学珠海分校に留学中の学生3名、北京聯合大学(北京市)に留学中の学生2名の15名です。12月21日午後新潟を出発。新潟空港-成田空港と乗り継いで22時過ぎに広州白雲空港に到着。北京師範大学珠海分校の胡学亮教授と留学生5名の出迎えを受けました。バスで珠海分校に向かう途中での「歓迎の軽い夕食会」で豪華な中華料理。宿舎についたのは夜中の3時過ぎでした。翌22日の10時から始まった学生交流会では、日中の学生が十分に準備を重ねた報告を行い、呉副学長から「100点満点の発表!」とのお褒めをいただきました。夜は珠海分校主催の歓迎会です。翌23日は少人数のグループに分かれてマカオ見学をし、夜は、北京師範大学珠海分校教育学院の創立10周年記念パーティーに参加。どの場面でも、留学経験を積んだ学生たちが通訳として大活躍をしました。翌24日は北京師範大学南奥実験学校を訪問して鄭校長から実験学校の教育についてお話を伺った後、広州タワー見学。翌25日は高速鉄道で香港に移動。香港の夜景を楽しんで、翌26日には新潟に戻ってきました。

今回は、参加学生15名のうち9名は中国語を話す、という随分と贅沢な陣容の旅でしたので、「少数派」の「日本語しか話せない学生たち」も、言葉の問題で緊張したり戸惑ったりすること無く、伸び伸びと旅行を楽しんだようです。中国語を駆使して活躍する同級生や先輩を見て、中国語が出来たらどんなに楽しいだろうと思った学生も少なくありません。

旅の終わりに参加学生に感想を聞きましたら、「行く前はちょっと緊張していたし、なんでこんな時に行くと言われることが多かったの、元気がなかった。でも行ってきてよかったと、今はすごく思う。とても親切にしてもらったし、とても楽しかった。自分はこれまでなんて狭い世界しか見ていなかったの、かって呆然としている。他の人も参加したら良かったのに」とのことでした。

(2) 交換留学制度を利用した留学

今年度は、中国から前期7名、後期11名の留学生を受け入れました。新潟大学教育学部からは前期10名、後期7名が留学しました。来年度前期も、6名が留学します。

(3) 出張講義

新潟大学からは6月に4名の教官が集中講義に出かけました。北京師範大学珠海分校の2名の先生による集中講義は2月に行われました。いずれも熱気あふれる授業でした。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	ロシア	2013年夏季ユニバーシアード・カザン大会インスペクション訪問	2012/4/18	2012/4/23	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：ロシア大学スポーツ連盟
准教授	杉澤 武俊	米国	WPA(西部心理学会)第92回大会参加	2012/4/25	2012/5/2	科研費基盤研究（C）
准教授	足立 幸子	米国	第57回国際読書学会年次大会に参加	2012/4/27	2012/5/4	科研費基盤研究（C）
教授	五十嵐 久人	ロシア	国際大学スポーツ連盟定例理事会	2012/5/8	2012/5/15	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：ロシア大学スポーツ連盟
准教授	有川 宏幸	米国	国際行動分析学会に参加	2012/5/26	2012/5/31	基盤教育経費，基盤研究経費
教授	五十嵐 久人	イラン	アジア大学スポーツ連盟定例理事会	2012/6/7	2012/6/12	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：イラン大学スポーツ連盟
准教授	高清水 康博	ドイツ	IODP 第339 次航海サンプリングパーティ	2012/6/8	2012/6/17	受託研究費
教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学南奥実験学校「国際シンポジウム」で発表	2012/6/21	2012/6/23	特別経費（教員養成）
教授	松井 賢二	中国	北京師範大学南奥実験学校「国際シンポジウム」で発表	2012/6/21	2012/6/23	特別経費（教員養成）
准教授	向山 恭一	中国	北京師大珠海校との交換授業及び同大学貴州実験学校訪問	2012/6/28	2012/7/5	特別経費（教員養成）
准教授	伊野 義博	中国	北京師大珠海校との交換授業及び同大学貴州実験学校訪問	2012/6/28	2012/7/3	特別経費（教員養成）
准教授	雲尾 周	中国	北京師大珠海校との交換授業及び同大学貴州実験学校訪問	2012/6/28	2012/7/5	特別経費（教員養成）
教授	大浦 容子	中国	北京師大珠海校との交換授業及び同大学貴州実験学校訪問	2012/6/28	2012/7/5	特別経費（教員養成）
准教授	興治 文子	トルコ	物理教育国際会議（WCPE）での研究発表	2012/6/30	2012/7/7	科研費（萌芽）
准教授	佐藤 亮一	米国	2012IEEEアンテナ及び伝搬に関する国際シンポジウム、USNC-URSI国際電波科学会議で発表，他	2012/7/7	2012/7/13	スペースセンシング予算（代表：工学部）
准教授	中島 伸子	カナダ	第22回International society for study of behavioral development（国際行動発達研究学会）に出席	2012/7/8	2012/7/12	科研費基盤研究（C）
教授	山田 和美	韓国	第12回数学教育国際会議（ICME12）発表及び資料収集	2012/7/8	2012/7/15	特別経費（教員養成），基盤研究経費

准教授	興治 文子	エストニア	第43回国際物理オリンピックに於ける諸外国の物理教育の情報収集	2012/7/12	2012/7/25	NP0法人 物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
准教授	山口 智子	オーストラリア	国際家政学会（IFHE2012）への出席	2012/7/13	2012/7/22	科研費若手研究（B）
准教授	阿部 好貴	台湾	PME36に出席	2012/7/17	2012/7/22	特別経費（教員養成），基盤研究経費
准教授	牛山 幸彦	オーストラリア	isekconference2012出席のため	2012/7/17	2012/7/23	科研費基盤研究（B）
准教授	村山 敏夫	オーストラリア	国際学会「International Society of Electrophysiology and Kinesiology」に出席	2012/7/17	2012/7/23	特別経費（教員養成）
准教授	岸本 功	ドイツ	研究打合せ及び国際会議STRINGS2012に参加し最近の研究動向調査を行うため	2012/7/19	2012/7/30	若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金
准教授	佐藤 亮一	ドイツ	国際会議IGARSS2012に出席し研究成果の発表及び研究に必要な資料収集	2012/7/21	2012/7/29	スペースセンシング予算（代表：工学部）
准教授	工藤 起来	ブラジル	アシナガバチ類の調査・採集及び研究打ち合わせ	2012/7/21	2012/8/7	科研費基盤研究（C）
准教授	田中咲子	トルコ	トロス遺跡発掘調査 等	2012/8/2	2012/8/22	新潟大学プロジェクト推進経費(奨励研究), 科研費基盤研究（B）
教授	滝澤 かほる	米国	米国大学の教育事情視察	2012/8/5	2012/8/9	教育学部一般管理費
准教授	下保 敏和	米国	語学研修の受講	2012/8/5	2012/8/19	特別経費（教員養成）
准教授	森下 修次	米国	語学研修の受講	2012/8/5	2012/8/19	特別経費（教員養成）
准教授	志賀 隆	韓国	水生植物の分布調査及びDNA解析用の試料採集	2012/8/21	2012/8/31	科研費若手研究（B）
准教授	足立 幸子	イギリス・ドイツ	国際児童図書評議会第33回大会で発表，他	2012/8/21	2012/8/30	科研費基盤研究（C）
准教授	興治 文子	韓国	韓国の高校でのICT活用視察	2012/8/22	2012/8/24	特別経費（教員養成）
准教授	牛山 幸彦	韓国	2012日本・韓国大学生卓球交流戦	2012/8/26	2012/8/31	日本学生卓球連盟
教授	宮菌 衛	韓国	東アジア漁業資源の環境教育に関する聞き取り調査	2012/8/26	2012/8/29	朱鷺・自然再生学研究センター研究費
教授	滝澤 かほる	台湾	平成24年度体操ゼミナール夏期研修会に参加	2012/8/31	2012/9/4	基盤研究経費
准教授	佐藤 亮一	カナダ	2012IEEE VTC FALLに参加し，室内伝搬の情報の収集	2012/9/2	2012/9/8	特別経費（教員養成），基盤研究経費

教授	滝澤 かほる	フィンランド	フィンランド・日本体操実技研修及び教育事情視察調査のため	2012/9/5	2012/9/12	本人負担
教授	山崎 健	フィンランド	フィンランドにおける学校体育事情の視察	2012/9/5	2012/9/12	特別経費（教員養成）
教授	小久保美子	中国	北京師範大学南奥実験学校記念式典出席，他	2012/9/7	2012/9/10	学長裁量経費
教授	山田 和美	中国	北京師範大学南奥実験学校記念式典出席，他	2012/9/7	2012/9/10	学長裁量経費
教授	鶴田 一雄	中国	北京師範大学南奥実験学校記念式典出席，他	2012/9/7	2012/9/10	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学南奥実験学校記念式典出席，他	2012/9/7	2012/9/10	学長裁量経費
教授	五十嵐 久人	中国	ハルビン商業大学60周年記念行事及びスポーツ交流について講演	2012/9/7	2012/9/9	渡航費：新潟大学G P 滞在費：ハルビン商業大学
教授	長谷川敬三	米国	研究打合せ	2012/9/8	2012/9/11	科研費基盤研究（C）
准教授	石垣 健二	ポルトガル	国際スポーツ哲学学会に参加し，研究発表を行うとともにポルト大学において資料収集	2012/9/9	2012/9/19	科研費基盤研究（C）
准教授	笠井 直美	タイ王国	学校保健に関するエッセンシャルズ研究に関する資料収集のため	2012/9/9	2012/9/15	特別経費（教員養成）
准教授	杉村 桃子	ポルトガル	The 41st Textile Research Symposium 出席及びポルトガルの伝統的な織物文化に関する資料収集	2012/9/9	2012/9/18	特別経費（教員養成），基盤教育，基盤研究
教授	小林 日出至郎	ポルトガル	第40回国際スポーツ哲学学会に参加及び「ホメロスの運動競技」に関する研究打合せ	2012/9/10	2012/9/16	科研費基盤研究（C）
准教授	佐藤 佐敏	台湾	PISA型読解力調査で高い学力を示す台湾の学力事情の調査	2012/9/12	2012/9/15	特別経費（教員養成）
准教授	足立 幸子	フランス	フランスの中学校・高等学校における読書教育及びその支援体制の調査	2012/9/14	2012/9/21	独立行政法人 国立青少年振興機構
教授	五十嵐 久人	ロシア	国際大学スポーツ連盟理事会及び臨時総会	2012/9/18	2012/9/24	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：ロシア大学スポーツ連盟
准教授	高橋 桂子	韓国	家庭科教育に関する実施視察・実態ヒアリングのため	2012/9/19	2012/9/22	特別経費（教員養成）
准教授	釜本 健司	韓国	シンポジウムに参加	2012/9/21	2012/9/25	科研費基盤研究（B）
教授	伊藤 克美	ドイツ	素粒子の対称性に関する共同研究の打合せ	2012/9/23	2012/10/10	若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金
准教授	麓 慎一	ロシア	サンクトペテルブルク所在日本関係史料の調査	2012/9/27	2012/10/7	科研費基盤研究（A）

教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽・民俗芸能研究	2012/9/27	2012/10/5	本人負担
教授	五十嵐 久人	フィンランド	2012年世界学生レスリング選手権大会で運営統括委員長の任務遂行	2012/9/28	2012/10/8	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：フィンランド学生スポーツ連盟
教授	鈴木 賢治	ドイツ	第9回残留応力に関する国際会議に出席	2012/10/6	2012/10/13	共同研究費
教授	横坂 康彦	韓国	国際シンポジウムDiscovery of Modernity in East Asian Music:The West, Tradition, and Beyondで研究発表	2012/10/18	2012/10/19	梨花女子大学
教授	山崎 健	韓国	日中韓3大学スポーツ交流プロジェクトに参加	2012/10/23	2012/10/26	新潟大学G P
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流事業の事前打合せ	2012/10/25	2012/10/28	学長裁量経費
教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流事業の事前打合せ	2012/10/25	2012/10/28	学長裁量経費
准教授	岸本 功	イスラエル国	国際会議SFT2012に参加	2012/10/27	2012/11/2	科研費基盤研究（B）
准教授	田中咲子	イギリス・ギリシャ	科研費研究「古代ギリシア・ローマ美術史における祈りの図像に関する社会学的考察」に関する調査	2012/10/31	2012/11/10	科研費（挑戦的萌芽）
准教授	世取山 洋介	ベルギー	国際学会に出席	2012/11/6	2012/11/12	科研費基盤研究（C）
准教授	足立 幸子	カタール	IASL2012国際会議に出席	2012/11/10	2012/11/17	科研費基盤研究（C）
教授	横坂 康彦	オーストリア, イタリア	西洋音楽並びに音楽マネジメントに関する施設見学と教材収集	2012/11/23	2012/12/1	基盤教育経費, 基盤研究経費
教授	清水 研作	ロシア	ロシアにおける音楽専門教育の在り方についての調査	2012/11/24	2012/12/1	特別経費（教員養成）
教授	五十嵐 久人	タイ王国	アジア大学スポーツ連盟（AUSF）理事会及び総会出席	2012/11/25	2012/11/30	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：タイ国大学スポーツ連盟
准教授	足立 幸子	米国	リテラシー研究学会第62回年次大会発表のため	2012/11/27	2012/12/3	科研費基盤研究（C）
教授	郷 晃	ハンガリー・オーストリア・チェコ	地域美術論・地域芸術研究（ヨーロッパ美術研修）の学生引率	2012/11/28	2012/12/7	特別経費（教員養成）・基盤教育経費
准教授	永吉 秀司	ハンガリー・オーストリア・チェコ	地域美術論・地域芸術研究（ヨーロッパ美術研修）の学生引率	2012/11/28	2012/12/7	特別経費（教員養成）
教授	丹治 嘉彦	台湾	台北で行われる台北ビエンナーレ2012の調査と資料収集	2012/12/8	2012/12/12	基盤研究経費
教授	長谷川敬三	フランス・ドイツ	研究会「Confomal and kaehler Geomety」に出席, 講演及び研究打合せ	2012/12/10	2012/12/20	科研費応募支援プログラム経費

准教授	麓 慎一	台湾	科学研究費調査用務	2012/12/20	2012/12/26	科研費基盤研究 (C)
教授	大浦 容子	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2012/12/21	2012/12/26	学長裁量経費
教授	相庭 和彦	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2012/12/21	2012/12/26	学長裁量経費
准教授	中島 伸子	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2012/12/21	2012/12/26	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2012/12/21	2012/12/26	学長裁量経費
准教授	杉澤 武俊	中国	北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2012/12/21	2012/12/26	学長裁量経費
准教授	渡邊 道之	台湾	研究集会に参加し、講演	2012/12/25	2012/12/29	科研費若手研究 (B)
准教授	麓 慎一	ベトナム	新潟大学環東アジア研究センターの学術交流のための協議	2013/1/5	2013/1/9	新潟大学 人文学部・組織改革推進経費
准教授	八坂 剛史	スイス	国際バレーボール連盟 コーチ委員会会議に出席	2013/1/27	2013/2/1	国際バレーボール連盟
准教授	牛山 幸彦	台湾	台湾師範大学との交流協定締結に関する打合せ	2013/2/5	2013/2/8	特別経費 (教員養成)
准教授	田中 誠二	台湾	新潟大学GP「アジア大学スポーツ交流プロジェクト」における台湾師範大学との連携に向けた意見交換、スポーツ関連施設の調査	2013/2/5	2013/2/8	新潟大学G P
教授	五十嵐 久人	ロシア	夏季ユニバーシアード2013年カザン大会事前調査訪問	2013/2/11	2013/2/17	渡航費用：国際大学スポーツ連盟 (FISU) 滞在費：ロシア大学スポーツ連盟
准教授	高橋 桂子	米国	Duval Family Studies で発表	2013/2/13	2013/2/18	科研費基盤研究 (C)
准教授	工藤 起来	ブラジル	アシナガバチ類の調査・採集及び研究打合せ	2013/2/20	2013/3/13	科研費基盤研究 (C)
教授	伊藤 克美	ドイツ	素粒子の対称性に関する共同研究の打合せ	2013/3/2	2013/3/18	科研費基盤研究 (C)
教授	五十嵐 久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟 (FISU) 理事会に出席	2013/3/5	2013/3/10	国際大学スポーツ連盟
准教授	興治 文子	米国	ライト大学における教員養成授業及び中学校理科授業の視察	2013/3/10	2013/3/14	特別経費 (教員養成)
教授	宮菌 衛	台湾	科学研究費補助金による海洋の授業実践開発のための調査	2013/3/11	2013/3/15	科研費基盤研究 (C)
准教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金による研究遂行のための史料調査	2013/3/13	2013/3/23	科研費 (挑戦的萌芽)

教授	相庭 和彦	中国	今年度の教育研究交流事業の評価ならびに次年度事業の打合せ	2013/3/13	2013/3/16	学長裁量経費
准教授	雲尾 周	中国	今年度の教育研究交流事業の評価ならびに次年度事業の打合せ	2013/3/13	2013/3/16	学長裁量経費
教授	大浦 容子	中国	今年度の教育研究交流事業の評価ならびに次年度事業の打合せ	2013/3/13	2013/3/13	学長裁量経費
准教授	杉澤 武俊	中国	今年度の教育研究交流事業の評価ならびに次年度事業の打合せ	2013/3/13	2013/3/16	学長裁量経費
教授	長谷川敬三	チェコ	「等質局所共形ケーラー多様体」に関する研究打合せ	2013/3/16	2013/3/22	科研費基盤研究（A），科研費応募支援プログラム経費
教授	丹治 嘉彦	アラブ首長国連邦	第11回シャルジャ・ビエンアーレ展調査・研究	2013/3/17	2013/3/21	科研費応募支援プログラム経費
教授	相庭 和彦	中国	教育研究会議に出席及び次年度科研費準備の研究調査の打合せ，他	2013/3/23	2013/3/26	基盤研究経費

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「創造的思考力を高める授業－3年次研究－」の下で、指定研究授業（19回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から約1,300名の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要 第70集 創造的思考力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（Fねっと+）」（年4回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生11名、6月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生76名、9月10日～14日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生27名 6月4日～15日）
- d. 秋期教育実習（3・4年生、大学院生、別科生、32名 10月20日～11月2日）
- e. 研究教育実習（3年生6名 2月～3月）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の教育理念として掲げ、「発達障害児教育研究班」「附属新潟小・中学校教育課程研究班」「附属特別支援学校教育課程研究班」「異文化交流研究班」の四つの研究班を中心に、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

a. 小中9か年を見通した教育活動

- ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を実施。

b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動

- ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
- ・展覧会での特別支援学校生徒作品の展示。

c. 異文化交流活動

- ・平成24年5月に、交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学から教職員7名が来日。4～6年児童による歓迎セレモニーの後、当校教職員と合同の国語教育協議会に参加。父母教師会主催の歓迎会・送別会にも参加。
- ・平成25年3月に、当校教職員5名が、北京師範大学実験小学を訪問。音楽、美術、心の教育について意見交換予定。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・体育や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。
- ・学校保健委員会において、新潟大学研究推進機構構域学術院 大森 豪 教授より「子どもの成長とスポーツ傷害」の演題で講演いただいた。
- ・健康教育の組織的な推進の在り方、健康保持のための地域の保健活動の大切さについて、その理論と具体とを初等教育研究会で示した。
- ・総合的な学習の時間において調理員へのインタビュー、「完食調査」など、多面的な取組を行った。

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会など各種大会入賞多数
- ・第58回青少年読書感想文コンクール最優秀賞，第62回全国小・中学校作文コンクール優秀賞受賞
- ・第43回ジュニア展，第9回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・2012年度新潟市花火の絵コンテストグランプリ賞受賞
- ・第48回新潟市児童・生徒科学教育研究会発表者多数
- ・新潟市小学生陸上記録会6年男子100m優勝
- ・世界ユースバレエ大会ニューヨーク大会世界第2位入賞

⑥ その他

- ・当校教員の学部授業への参加7名14回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：10名19回
- ・教員研修の受入：初任者研修2回，新採用養護教諭研修1回
- ・視察受け入れ：7回（鳥取，千葉，富山，中国，静岡，国立教育政策研究所）

(2) 研究会，講演会の開催

① 平成24年度附属新潟小学校中間検討会

- 日 時 2012年9月26日（水）
- 会 場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 — 3年次研究—」
- 内 容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約80名

② 平成24年度初等教育研究会

- 日 時 2013年2月7日（木）・8日（金）
- 会 場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 — 3年次研究—」
- 内 容 C C T ・公開授業・全体会・授業協議会・学級力フォーラム・講演
講演：宇治橋祐之（日本放送協会制作局第1制作センター 青少年・教育番組部専任ディレクター）
演題：「知識を結びつけ伝える力を育てる」
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,300名

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第70集創造的思考力を高める授業』（年1回発行）
- 『授業の研究（Fねっと+）』（第182号，第183号，第184号，第185号：年4回発行）
毎号の特集「伝える力を高める」「子ども同士をつなげる学級づくり」「評価から指導を考える」「生活・総合の学びをどう創るか」
年間テーマ「創造的思考力を高める授業Ⅲ」

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・長谷川豊「例話：サンコンさんのお母さんの教え」「例話：ホスピタリティ・マインドと真摯さと笑顔」
『月刊プリンシパル』2012年11・12月（学事出版）
- ・井上幸信「学習者間の親和的態度と経験の共有とが『自分の考えを形成する』ことと『交流』とを結ぶ」
『月刊国語教育研究』2012年5月（日本国語教育学会）
- ・井上幸信「我が県の国語ソムリエ」『教育科学国語教育』2012年5月（明治図書）
- ・井上幸信「はじめは「や！」の授業」『読解力を高める 表現力を鍛える 国語授業のつくり方』2012年8月（東洋館出版社）
- ・井上幸信「一年生段階から論理構造に注目させる発問をするべし」『子どもと創る国語の授業』2012年8月（東洋館出版社）
- ・井上幸信「1年生を話し合う集団に育てる3ステップ」『対話授業づくり一日講座』2012年8月（文溪堂）
- ・岡田崇宏「操作的な確かめを通して論理的に考える子ども—第5学年：多角形の内角の和
発見！敷き詰められる図形の秘密」『月刊新しい算数研究6月号』2012年5月（東洋館出版）
- ・石見丈昌「〔共通事項〕を視点に教科書教材を見直す」『音楽鑑賞教育』2013年1月（音楽鑑賞振興財団）

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

- a. 実践研究「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』－思考スキルを用いさせることを通して」の推進

これまでの当校の研究では、生徒が無意識に行っていたいくつかの思考法を抽出し、それらを「思考スキル」と名付け、それぞれの「思考スキル」を定義し、生徒が用いる際の「文型」や「キーワード」を示した。生徒は「思考スキル」を用いることで、互いに考えを吟味したり、考えを伝えたり、立案した解決策を改善したりすることができるようになり、よりよく課題を解決できるようになってきた。このような姿は、思考力・判断力・表現力が高まった姿であるととらえている。今後、さらに私たちが目指していく姿は、将来、直面するであろう一層複雑化した諸問題を、主体的に解決できる姿である。そのためには、生徒が「思考スキル」を用いることによって、課題を解決していく過程を自ら推し進めていけるように思考力・判断力・表現力を育成していく必要がある。



ところで、生徒が課題を解決していく過程の意識を辿ると、意識の変化が見られる。このような生徒の意識を基に、課題を解決していく過程を、4つから5つに細分化し場面として設定する。そして、それぞれの場面に有効な「思考スキル」を明らかにし、かつ、その有効性を生徒に実感させることができたならば、将来的に、これまで以上に課題を解決していく過程を、自ら推し進めていくことができるはずである。そこで、「思考スキル」を用いることができるようにするための手だてを講じることで、生徒が各場面に応じた「思考スキル」を用いていく授業を、本研究において「課題解決の授業」と呼ぶこととし、「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』－思考スキルを用いさせることを通して－」と研究主題を掲げ、実践研究に取り組んだ。

また、思考力・判断力・表現力を育成するために、附属新潟小学校との連携を密にし、「活用型学力を育成する9カ年間教育課程と指導法の開発」に取り組んだ。小学校で身に付けた学習技能である「書くスキル」「聞くスキル」「話すスキル」「読むスキル」「調べるスキル」「評価するスキル」「見通すスキル」や「創造的思考力」を基にして、中学校で「対比スキル」「仮定スキル」「帰納スキル」等の思考技能を効果的に用いさせ、課題解決を図る生徒の育成を図った。

b. 交流活動の推進

ア. 中学校1年生と附属特別支援学校中等部生徒とのグループ交流活動

「共同作品をつくり上げよう」という作品の構想や共同制作を行いました。目的をもって、最後に展示会を開き、お互い感想を述べ合いました。これらの活動を通して、かかわりを深めました。

イ. 中学2年生の「沖縄の旅」における交流活動

平成25年2月5日(火)～8日(金)に実施した2年生「沖縄の旅」では、民泊を2泊行った。生徒は、実際の沖縄での家庭生活を体験し、民泊先の家族との交流を深めたり、平和学習をしたりする中で、互いの文化の違いやよさを実感していくことができた。

② 学部と連動した活動

a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

b. 学部教員および学生との共同研究

今年度は実施しなかった。

c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、13名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、9名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、6名の学部教員の方々から指導をいただくとともに、1名の学部教員から講師として講演をしていただいた。

③ 危機管理に関する活動(小中合同避難訓練の実施)

11月15日(木)に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日, 受入人数

a. 春期教育実習	6月 4日(月)～15日(金)	21人(うち母校実習3)
b. 2年次観察実習	9月10日(月)～14日(金)	106人
c. 秋期教育実習	10月22日(月)～11月2日(金)	22人
d. 1年次入門実習	年間3回合計3日間	12人

② 特色ある実習内容

a. 春期教育実習, 秋期教育実習において、道徳の指導案を作成し、学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。

b. 2年次観察実習において、同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会, 講演会等の実施

① 授業研究会(会場 附属新潟中学校)(テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』ー思考スキルを用いさせることを通して」)

a. 5月～7月(各教科で日時を設定)全必修教科で授業研究を行った。全教科とも、学部教員や行政関係者が参観した。また、すべての教科において、公立校の教員も授業を参観し、協議会にも参加した。

b. 10月1日(月) 国語, 数学, 理科, 美術, 保健体育, 技術, 家庭科, 英語, 学習スキルの各教科, 取組において、学部教員や行政関係者, 公立校の教員とともに、中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

c. 12月(各教科で日時を設定) 社会, 数学, 理科, 音楽, 技術, 英語の各教科, 取組において、

学部教員や行政関係者、公立校の教員とともに、冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

- ② 平成24年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』－思考スキルを用いさせることを通して」）
 - a. 期 日 10月11日（木）
 - b. 内 容 授業公開（国語，数学，理科，美術，保健体育，技術，家庭科，英語，学習スキル）
授業協議会
 - c. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計394人
 - ③ 平成24年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』－思考スキルを用いさせることを通して」）
 - a. 期 日 1月25日（金）
 - b. 内 容 授業公開（社会，数学，理科，音楽，技術，英語），授業協議会，講演会
 - c. 講演会講師 竹内裕一（千葉大学），影山和也（広島大学），山下秀一（千葉大学），
大熊信彦（文部科学省），南雲秀雄（新潟青陵大学），松沢伸二（新潟大学）
 - d. 参会者 学部教員，市教育委員会指導主事，県内外教員，学生 他 合計424人
 - ④ その他
 - a. 初任者研修授業研修協力校
 - ア. 期 日 6月12日（火）
 - イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 中学校12人，特別支援学校4人
下越教育事務所指導主事，当校職員
 - ウ. 内 容 授業公開（各教科），研究協議，講話，演習
 - b. 学校視察の受け入れ
静岡県賀茂郡小・中学校 校長2人，教諭7人（10月26日）
新潟医療福祉大学観察参加実習 学生4名（2月13日）
- (4) 研究報告等
- ① 研究誌
 - a. 研究紀要 「思考力・判断力・表現力を育成する『課題解決の授業』－思考スキルを用いさせることを通して」（1年次） 公開授業案（10月11日発行）
 - b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案（1月25日発行）
 - ② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2013年4月～2014年3月>
 - ・ 金山 光宏 原稿執筆 清水静海編「中学校新数学科 数学的活動の実現 第1学年編」
(株) 明治図書 分担執筆
 - ・ 小林 大介 関東信越国税局 租税教育セミナー実践発表
 - ・ 稲生 一徳 原稿執筆「エンカウンターで学級づくり フレッシュ版 中学校1年生」
(株) 明治図書
 - ・ 内藤浩悟 第38回全国英語教育学会 愛知研究大会 発表
「指導と評価の一体会を目指して～ジャンル準拠指導の実践～」

7.3 附属特別支援学校

(1) 特色ある活動

① 連携・交流活動

【新潟地区附属三校交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童，中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・通級指導連携コーディネーターを活用した児童生徒支援
- ・新潟市内中学校主催支援会議への参加 24校延べ52回

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加，1人
- ・学生ボランティアの登録：登録62人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会10人，特別支援教育研究会31人
すなやま祭17人，学部・学級行事37人

【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月2回程度開催

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会(同窓会)の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。
(8月25日開催。高等部生徒30，卒業生53，卒業生保護者20，旧職員7人
現職員29人参加)
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定
(2月2日開催。卒業生51人，卒業生保護者19人参加)

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ(すなやまの家を会場に提供)
延べ約2,900人利用

② 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【特別支援教室の開設】

- ・特別支援教室：新潟市内中学生24人週1回定期支援，4人不定期支援
- ・教育相談：定期（週1回程度）は2人，不定期は多数

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- ・下越特別支援教育研究協議会指導者 大竹 嘉則 副校長（他2回）
- ・県立三条高等学校校内研修会講師 齋藤いずみ 教頭（他1回）
- ・新潟市立木戸中学校校内研修講師 今井 信郎（他4回）
- ・新潟市立白根第一中学校校内研修講師 嶋見 真理子（他1回）
- ・新潟市総合福祉会館研修会講師 佐藤 宏光
- ・県立教育センター研修会講師 小林 史子
- ・新潟市立潟東中学校校内研修講師 朝妻 裕祐
- ・県初任者研修講師 風間 昌幸
- ・新潟市立早通南小学校校内研修講師 廣川 豊士
- ・新潟市立新通小学校校内研修講師 疋田 敦士
- ・新潟市立山田小学校校内研修講師 渡部久美子，白井 智洋
- ・新潟市立木戸中学校校内研修講師 八藤後和男，伊藤 宏之

③ 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生14人(5月26日，8月23日，9月14日)
- ・教育実習生の受入(春期：30人 秋期：23人)
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：48人(12月2日)
- ・介護等体験生の受入(年間10回，合計305人)

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観(6月19日 10人)

④ 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会，鑑賞教室
- ・インターンシップ等(高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定， 中学部：1～3日間)
- ・修学旅行(中学部3年生：東京方面，高等部3年生：沖縄方面)
- ・校内宿泊学習(全学部実施「すなやまの家」に宿泊)
- ・親子サマーレクリエーション(小学部PTA)
- ・もちつき大会(中学部PTA)
- ・スキー・そり教室(全学部)
- ・卒業生を送る会(全学部)

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区PTA研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附連北信越地区研修会長野大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

(2) 研究会，公開講座の開催

① 研究会

- ・第35回特別支援教育研究会(10月19日開催)
研究主題：明日をきり拓く「自己実現に向かう力」を育てる支援(第3年次)
参加者数：457名

② 公開講座

- ・第1回公開講座：4日にわたり4回(6月6日，6月20日，7月4日，7月20日)開催
テーマ：「新潟大学方式 親のスキル訓練2012」
講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授，参加者数：20人

(3) 研究報告等

① 研究会開催にかかわる実践発表

- ・研究紀要 第35集「明日をきり拓く『自己実現に向かう力』を育てる支援(第3年次)」

② 執筆依頼等に応じての実践発表

- ・佐藤 宏充「一人一人の活動と参加を高める領域・教科をあわせた指導」
～知的障害児の自立を目指して～ 明治図書

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んでいる。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間のカリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間を5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成と保育者の援助の在り方がどうあるべきかについて、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校低学年との「異年齢協働探究型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- | | | |
|-----------|----------|-----------------|
| a 入門教育実習 | (1年生延39名 | 5月11日・24日、7月2日) |
| b 春期教育実習 | (3年生 5名 | 6月4日～15日) |
| c 観察参加実習 | (2年生 7名 | 9月10日～14日) |
| d 秋期教育実習 | (3年生 1名 | 10月22日～11月2日) |
| e 留学生の園訪問 | (留学生 7名 | 1月21日) |

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「合同避難訓練」も行っている。

- 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- 観客型連携による相互訪問
- 中学生の保育参観、遊びの紹介
- 5歳児の小学生との合同活動(社会創造科)
- 研究授業・保育の相互参観
- 授業・保育交流

④ 学部との連携

- 大学教員による講演会(園長を講師としPTAと共催の子育て講演会)

⑤ 北京師範大学南奥実験学校との交流

北京師範大学珠海分校・南奥実験学校を訪問

- 国際シンポジウム参加 6月21日～23日(副園長：シンポジウム発表)

b 開学10周年記念式典参加 9月7～10日(園長)

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会(11名 11月28日～29日)

⑦ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室 こんにちはの会 お花見散歩	11月：秋の家族参加日(昔の遊び) 作品展
5月：家族参加日(土曜参観)	12月：外国の方とのふれあい会
6月：プール開き 親子バス遠足(上越市立水族館)	1月：お正月お楽しみ会(餅つき) お正月お楽しみ会(カルタ取り)
7月：七夕会	そり遠足(国営越後丘陵公園)
9月：校舎合同運動会 秋の交通安全教室	2月：豆まき会
10月：悠久山探検遠足 秋を楽しむ会	3月：お別れ会

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成24年度教育研究協議会

ア 開催日 平成24年10月18日(木) 幼・小・中合同教育研究協議会
イ 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等
ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、講演会・一貫教育フォーラムを開催する。

(講演会)

講師 文部科学省初等中等局教育課程課教科調査官 水戸部 修治 様
演題 「子どもたちが主体的に思考し、判断する力を育む授業づくりをどう進めるか」

(一貫教育フォーラム)

コーディネーター・基調講演講師 千葉大学教育学部教授 天笠 茂 様
パネリスト

附属長岡中生徒会長 石坂 夏希さん (株)阿部幸製果 丸山 博史 様
附属長岡中PTA会長 品田 靖 様 十日町市教育委員会 笠原 実 様
附属長岡校舎研究開発部長 神子 尚彦

⑦ 幼稚園視察の受入

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を12名受け入れ(11月)
北京師範大学珠海分校南奥実験学校より教員5名 長岡校舎を訪問(2月7日)

⑧ 研究報告等

研究紀要「社会的な知性を培う」第2年次

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

平成22年度より3年間、文部科学省研究開発指定を受け、本年度研究成果のまとめを迎えた。研究成果は、1月11日の「研究開発フォーラム」(東京 学術総合センター)で発表してきた。研究開発指定では、「社会的知性」を培うための幼小中連携による協働探求学習カリキュラムと「知」の循環型教育システムの研究開発を目指して第3年次研究を推進した。また、幼小中12年間で5つのステージに再構成し、協働探求学習カリキュラムを開発し、新設教科「社会創造科」も実践しながら、「知」の循環型教育システムを提言してきた。

平成23年度から新学習指導要領完全実施となり、「確かな学力」をはぐくむため、「習得」や「活用」と「探求」を関連づけて指導するカリキュラム編成と授業改善が課題となっている。こうした教育界の動向も踏まえ、「社会的な知性を培う」第3次研究を進めてきた。その目的は、互いを尊重し合う人間関係を築き、学んだ知識や培ってきた力を生かしながら、人々の暮らしや環境、社会の諸問題へ目を向け、持続可能な社会を創り上げていくために、自ら考え、判断し、実践する「社会的な知性」を培うことである。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 小・中学校の各教科等の学習において、他との関わりの中で学びが深まる「協働型学習」の在り方を提案する。また、幼小中合同の「幼小中合同活動」を開発する。

イ 新教科「社会創造科」を新設し、異学年・地域・大学・博物館・高校・NPO・保護者等との連携によって、大人＝青年＝生徒＝児童＝幼児による多様な「異学年協働探究学習」カリキュラムを開発する。

ウ 各個人が学習を通して獲得したさまざまな経験や知識等の「知」が社会的に循環し、それが更なる創造を生み出す「知」の循環型教育システムを開発する。

これらのことを課題として研究を進め、10月の教育研究協議会で発表した。

*ユネスコスクール指定校(2012年2月承認)としての取組

1月26日に実施された「ユネスコスクール全国大会」(会場 奈良教育大学)において、新設教科「社会創造科」の取組を中心にした実践事例発表を行った。

発表内容についての参加者の関心も高く、発表後の質問や問い合わせ、学校訪問や研究紀要の取り寄せ依頼等を多く受けた。

② 教育実習生の受け入れと指導

- | | | |
|--------------------------|---------|---------|
| a. 入門教育実習①サマースクール(1年生 6名 | 6月20日～ | 6月22日) |
| 入門教育実習②栖吉川フェスティバル | | |
| (1年生12名 | 6月27日～ | 6月28日) |
| b. 観察参加実習(2年生 65名 | 9月10日～ | 9月14日) |
| c. 春期教育実習(3・4年生及び別科生 25名 | 6月 4日～ | 6月15日) |
| *母校実習生1名含む | | |
| d. 秋期教育実習(3・4年生及び別科生 24名 | 10月22日～ | 11月 2日) |

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリックな行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、職員の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

b. 中学校との連携

■「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流

- ・小5年と中1年「長岡のブランド企業の秘密を探ろう」
- ・小6年と中1年「大手通りのこれからを考えよう」



↑小中合同で行った「社会創造科」

④ 大学・学部との連携

a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践

- ・新潟大学教育学部 高清水康博准教授「津波の仕組み」 5年1組と5年2組で授業。
11月15日
- ・新潟大学教育学部 松井賢二教授 「キャリア教育」4年1組と4年2組で合同授業。
3月7日

b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

2名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。

- ・新潟大学教育学部 山田和美教授 5年1組 算数「オハジキで広がる算数の世界」
- ・新潟大学教育学部 松井賢二教授 ミニ講座「キャリア教育って、なあに？パートII」

c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科・滝澤研究室の学生から、延べ31回分（学生4名で8回）にわたって体操の指導を受け、成果を12月1日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5、6年生のスノースクール（2月）では、体育科・大橋研究室の学生12名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（75名94%）。

6月11日（月）

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

（6月小学校初任者8名、9月養護教諭初任者6名）

免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力

（国語、算数 教諭2名担当）

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。（国語、社会、図工、算数）

長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。（国語、算数、生活科等）

c. 新潟市教育委員会との連携

新潟市養護教諭12年経験者研修会の講師として参加した。（養護教諭）

d. 公立学校との連携

加茂市立加茂小学校校内研修会に講師として参加（算数2名、国語1名）

長岡市立阪之上小学校校内研修会に講師として参加（算数1名）

新潟市立浜浦小学校校内研修会に講師として参加（算数1名）

湯沢町教職員全体研修会に講師として参加（算数1名）

東蒲原郡養護教諭研修会の講師として参加（養護教諭）

社会科の初志をつらぬく会全国研究集会に提案発表（社会1名）

公立校教員対象の各教科領域別ミニ講座研修会の講師（各教科領域1～2回講座開催）

⑥ 中国との交流

・国際シンポジウム（北京師範大学南奥実験校にて）へ参加 6月21日～23日

松井小学校長、青柳中学校副校長、西澤幼稚園副園長、山崎中学校教諭、相庭教授

・北京師範大学南奥実験校創立10周年記念式典へ参加（小学校はお祝いビデオレターで参加） 9月7日～9日

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、家庭科の授業で、T.T.で参加した。

学級指導、総合的な学習の時間や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パッケンパワーボックス」

（食育に関する質問箱）の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

・1年1組 学級活動「食べ物の名前」11/8

・1年2組 学級活動「食べ物の名前」11/22, 1/13

・2年1組 学級活動「野菜さんとなかよし」2/14

・3年1組 学級活動「探ろう バランスのよい食べ方」6/20, 7/20



生田理事、五十嵐学部長の歓迎をいただいた大学訪問



学級活動で食育の推進

- ・ 3年1組 学級活動「食物繊維ってなんだろう」10/10, 10/12
 - ・ 3年2組 学級活動「探ろう バランスのよい食べ方」6/29, 7/3, 7/6
 - ・ 3年2組 学級活動「食物繊維ってなんだろう」10/13, 10/18
 - ・ 6年1組 給食時間「楽しいバイキング」2/21
 - ・ 6年2組 給食時間「楽しいバイキング」2/20
- c. 栄養教諭による講話等
- ・ 毎月1回程度 中学生への食育講話
 - ・ 毎月19日の「食育の日」に食育放送（給食時）
 - ・ 学級担任への食育資料提供
 - ・ 小学校、幼稚園の給食試食会での保護者への講話
 - ・ 教育実習生（別科生）への講話

（2）研究会、講演会等の開催

① 平成24年度初等教育研究協議会事前打合せ

- a. 日 時 2012年9月24日（月）
- b. 会 場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第3年次研究）
- d. 内 容 全体会（研究全体概要の説明） 及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成24年度初等教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日 時 2012年10月18日（木）
- b. 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第3年次研究）
- d. 内 容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業
 - ・ 12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・ 問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・ 新設教科「社会創造科」
 - 講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 水戸部 修治 氏
 演題「子どもたちが主体的に思考し、判断する力を育む授業づくりを
 どう進めるか」
 - 一貫教育フォーラム

テーマ「幼小中一貫教育を通して見えてきた、子ども・学校・地域へ
 の効果」

新潟大学教育学部附属長岡中学校生徒会長	石坂 夏希 さん
阿部幸製菓（株）企画開発部	丸山 博史 氏
新潟大学教育学部附属長岡中学校素心会長	品田 靖 氏
十日町市教育委員会小中一貫教育推進係長	笠原 実 氏
新潟大学教育学部附属長岡校園研究開発部長	神子 尚彦 氏
コーディネーター・基調講演	
千葉大学教育学部教授	天笠 茂 氏
- e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等

約 900名の参加者

- ③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催
北信越地区総会・実践活動協議会 長野大会
- a. 日時 2012年 9月27日(木) 副校園長会(市内巡検, 研修会・協議会等)
9月28日(金) 教育活動・授業公開, 協議会, 全体会・総会等
- b. 会場 信州大学附属校園(幼稚園、小学校、中学校),
「ホテルメトロポリタン長野」
(*副校園長会 真田宝物館, 文武学校, 「松代ロイヤルホテル」)
- c. テーマ 「附属校園の明日を拓く～課題から実践へ～」
- d. 内容 保育・授業公開, 協議会および全体会・総会, 情報交換会・懇親会
- e. 参加者 300名 *校長, 副校長, 教諭, PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第3年次研究』(年1回発行)
- b. 『子どもと授業』(年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名)
第69号 特集「一貫教育の推進に向けて」
第70号 特集「思考力・判断力・表現力を高める授業づくりと
幼小中一貫教育カリキュラムの効果」

② 教員の著書・論文・研究発表等(略)

(4) その他

① 危機管理に対する活動

- a. 不審者侵入対応避難訓練(9年目)
職員の対応訓練と児童の避難訓練
(指導・協力:長岡警察署生活安全係)
- b. 緊急電話連絡・メール配信訓練
- c. 防犯用携帯ベル支給(新入児童全員)
- d. 水泳授業監視員の配置

② いじめ防止に関する活動

- a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

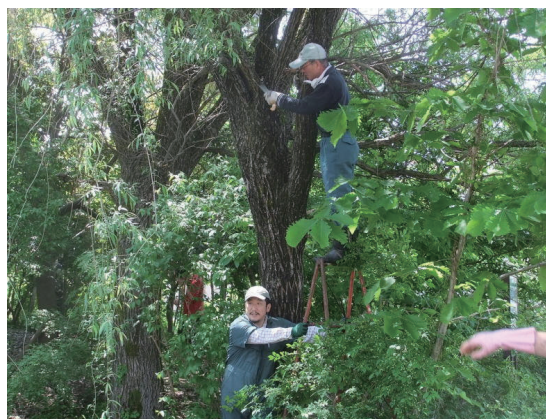
- a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

- a. 父親の参加を促す事業
「日曜参観」、「ふぞく百年の森整備作業(212名の参加)」、「校園ソフトボール大会」

⑤ 学習環境の整備

- a. 普通教室にエアコン設置(リース契約による設備整備, 諸経費は保護者負担による)



大勢の父親が参加した日曜参観、
ふぞく百年の森整備作業

7.6 附属長岡中学校

(1) 特色ある教育活動

① 文部科学省研究開発学校指定

平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」を開発している。子どもと子ども、子どもと地域とがともに学びを創りあげる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含めた各教科・領域によって「持続可能な社会」の形成者をはぐくむ研究を進めた。24年度は最終年度であり、まとめを文部科学省に報告した。

<社会創造科>

「社会的な知性」の構成要素に含まれる4つの資質・能力として「自己推進力」「人間関係構築力」「問題解決力」「開発力」を設定し、それらをはぐくむための教科として「社会創造科」を新設した。「異年齢協働探究型学習」では、校園内の児童生徒のみならず、企業、NPO、行政、地域の専門家等を交流相手や講師とするとともに、訪問先や学校等での学習において互惠関係を築き、「持続可能な社会」を実現するための活動を展開するカリキュラムを構築している。

② ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本校では社会創造科における郷土長岡と大都市東京とを比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を沖縄に広げた同様の追究学習（第2学年）を中心に取り組んでいる。生徒が設定した視点を基に、郷土と他地域との比較から「持続可能な社会」の在り方について、実態と課題、その解決方法について学習を深めている。

(2) 教育研究協議会

① 平成24年度教育研究協議会

- 期 日 平成24年10月18日（木）
- 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- テーマ 「社会的な知性を培う」（第3年次）
- 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業）、各教科、領域
 - ・ 一貫教育フォーラム（小中一貫教育推進課、社会創造科協力企業、PTA会長、生徒会長）
コーディネーター 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 氏
 - ・ 講演会 演題 子どもたちが主体的に思考し、判断する力を育む授業づくりをどう進めるか
講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 水戸部 修治 氏
- 参加者 県内外教員、学生、学部教員、教育委員会指導主事 北京師範大学南奥実験校 等
校園全体で、約1100人

(3) 地域教育委員会、大学との連携を図った教員研修への協力、

① 市教育委員会が行う教員の指導力向上を目指す取組への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート連成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」や市教育センター主催研修講座に対し、授業公開や講師派遣を行った。

② 大学との連携を図った現職教員研修への協力

教員免許更新講習における講座「学びをつなぎ、学びを生かす学習指導」において、大学教員との連携を図り、ゲストスピーカーとして職員を派遣し、実践発表を行った。

8. 外部資金

8.1 科学研究費補助金

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っており、今年度は2件が採択された。

平成24年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

平成24年度科学研究費助成事業採択一覧

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
21	基盤研究(C)	神村 栄一	パチンコ遊技への病的な嗜癖を示す成人に対する集団認知行動療法の効果検討
21	基盤研究(C)	高橋 桂子	出産前後の女性の就業選択行動の分析:「やりがい感」を中心に
22	基盤研究(C)	伊藤 克美	厳密くりこみ群によるゲージ論の研究
22	基盤研究(C)	佐藤 亮一	レーダボーラリメトリによる地震被災住宅の高精度識別手法の開発およびその活用
22	基盤研究(C)	中村 和吉	水中における基質表面への洗剤分子吸着挙動
22	基盤研究(C)	世取山 洋介	日米における新自由主義教育改革の教育法的小および教育制度論的研究
23	基盤研究(C)	足立 幸子	国際標準を反映した教員用読書力評価パッケージの開発
23	基盤研究(C)	石垣 健二	「身体教育(体育)によって育てる間身体性」の解明
23	基盤研究(C)	小林 日出至郎	『イリアス』の運動競技における精神性に関する研究
23	基盤研究(C)	宮菌 衛	出前授業方式による学生の環境教育実践力育成-「多国間環境問題解決型授業」を事例に
23	基盤研究(C)	柳沼 宏寿	「映像メディアによる表現」の教育的効果に関する研究~日豪のシネリテラシーを基に~
24	基盤研究(C)	大庭 昌昭	高強度領域における主観的努力度の変化が平泳ぎパフォーマンスに及ぼす影響
24	基盤研究(C)	工藤 起来	アシナガバチ亜科における多女王制社会の進化:生態学的視点からの解明
24	基盤研究(C)	小久保 美子	表現重視の読むことの学習方略が及ぼす読解力育成への影響に関する実証的・実践的研究
24	基盤研究(C)	高木 幸子	教師としての成長を授業実践力の視点から把握する実証的方法に関する研究
24	基盤研究(C)	中島 伸子	老化現象における心身の相互性理解の発達過程
24	基盤研究(C)	藤林 紀枝	物理学、化学の概念と連結した火山および火成岩の学習プログラムの基盤づくり
24	基盤研究(C)	本間 伸輔	英語・日本語数量詞句の統語構造、意味・談話的性質、作用域特性に関する理論的研究
24	基盤研究(C)	山崎 健	長距離ランニング中の動作変容にかかわるモデルの検討
21	若手研究(B)	角谷 聡	宋代詩文中の「三国志物語」を手がかりとした『三国志演義』形成過程の研究
22	若手研究(B)	杉澤 武俊	テストデータへの階層的線形モデルの適用
23	若手研究(B)	小堀 彩子	援助職の援助要請プロセスとバーンアウトとの関連の検討
23	若手研究(B)	志賀 隆	博物館標本の種子を用いた絶滅植物集団の復元と標本管理方法の開発
23	若手研究(B)	堀内 隆行	20世紀前半期南アフリカのカラードとブリティッシュ・アイデンティティに関する研究
23	若手研究(B)	渡邊 道之	線形及び非線形ヘルムホルツ型方程式の漸近解析と逆解析
24	若手研究(B)	阿部 好貴	数学的リテラシー育成のためのカリキュラム開発に向けた基礎的研究
24	若手研究(B)	一柳 智紀	対話的な相互作用を促す教師・学習者によるリヴォイシングの検討
24	若手研究(B)	清水 康博	砂丘を越えて沿岸低地を遡上する巨大津波からの堆積モデル構築
24	若手研究(B)	田中 誠二	占領期日本の学校における感染症対策に関する実証的研究
24	若手研究(B)	古田 和久	社会階層と学校適応に関する国際比較研究
24	若手研究(B)	山口 智子	米粉食品の調理加工性と食味の向上をもたらす機能水の解明
24	若手研究(B)	山本 啓介	中世後期和歌会関連古記録についての基礎的研究
23	挑戦的萌芽研究	麓 慎一	東アジアにおける中国海産物市場の形成とアイヌ社会
24	挑戦的萌芽研究	加藤 茂夫	英語科教育における事前教材評価に対する階層分析法(AHP)の応用に向けた実践研究
24	挑戦的萌芽研究	鈴木 賢治	測定困難材の内部応力評価への挑戦
24	奨励研究	高橋 洋子	住宅における畳室の減少-都市の規模と気温差に着目した40年間の経過分析-
24	奨励研究	畠山 森魚	抵抗力・摩擦力・電磁場が効く日常の物理現象を解明するICT基盤授業法の開発

8.2 寄付金

寄付金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成24年度における寄付金の主な受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的
高橋 桂子	公益財団法人 アサヒビール 学術振興財団	父親の家事参加：Theory of reasoned action による 実証研究
鈴木 賢治	一般財団法人 発電設備技術 検査協会	ニッケル基合金溶接金属の残留応力測定における研究 助成
鎌田 正喜	公益財団法人 内田エネルギ ー科学振興財団	光エネルギーを利用する新規抗マalaria活性化化合物の 合成研究：抗マalaria活性が高く細胞毒性低い1,2- ジオキソラン誘導体の合成
村山 敏夫	一般財団法人 日本健康開発 財団	地域住民の行動変容を目指した温泉資源と地域環境の 活用による保養モデルの開発
山口 智子	西地区農商工連携協議会	かんしょの奨励に対する助成

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成24年度における主な受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目
高清水 康博	独立行政法人 農業環境技術 研究所	公害防止等試験研究「湿原流域の変容の監視手法の確 立と生態系修復のための調和的管理手法の開発
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場 復帰支援に関する研究
篠田 邦彦	新潟市	高齢者に優しい歩行空間のあり方研究事業
牛山 幸彦	財団法人 日本卓球協会	卓球の繰り返しストロークによる筋疲労特性推定法の 検討
山口 智子	奥阿賀・緑の油田プロジェクト 連携体事業管理者 (株)巴山組	雪椿、エゴマオイル関連製品の試作、分析評価、食品 応用研究
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究業務
村山 敏夫	新潟県	県民の身体活動量増加を目指した勤労者の運動量実態 調査
高清水 康博	独立行政法人 海洋研究開発 機構	Exp.339 地中海流出に支配されたカディス湾ドリフト 堆積体の成立と時空変化の解明
村山 敏夫	新発田市	身体活動量増加を目指した勤労者の運動量実態調査 (新発田市役所職員の健康増進に向けた行動変容アプ ローチについて)

○受託事業

事業担当者	委 託 者	事 業 題 目
長澤 正樹	文部科学省	平成24年度民間組織・支援技術を活用した特別支援 教育研究事業

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成24年度における主な共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
鈴木 賢治	一般財団法人 電力中央研究所	SCC試験片の極小領域応力測定に関する研究
鈴木 賢治	独立行政法人日本原子力研究開発機構	回折スポット追跡法による溶接材の内部応力に関する研究

(巻末資料)

平成24年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	174	158	52	46
		教育心理学専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	572	531	158	142
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
音楽教育専修							
美術教育専修							
保健体育専修							
推薦入学		40	65	65	40	40	
小 計		220	811	754	250	228	
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	286	191	52	49	
生活科学課程 生活科学コース		15	94	94	28	22	
健康スポーツ科学課程		30	199	158	32	31	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	71	70	28	26	
	造形表現コース	20	62	38	23	22	
	書表現コース	15	47	47	17	17	
	小 計	60	180	155	68	65	
合 計		370	1,570	1,352	430	395	

●平成24年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	6(2)	6(2)	5(2)	5(2)
	教育心理学分野		4(1)	3(1)	2(1)	1(1)
	臨床心理学分野		7	6	3	1
	特別支援教育分野		5	5	5	4
	幼児教育分野		2(2)	2(2)	0	0
	教育実践開発コース	10人	3	3	3	3
	小計	20人	27(5)	25(5)	18(3)	14(3)
教科教育	国語教育専修	32人	8(2)	8(2)	6(1)	6(1)
	社会科教育専修		5(1)	5(1)	5(1)	4(1)
	英語教育専修		4	4	4	4
	数学教育専修		2	2	2	2
	理科教育専修		8	7	6	5
	音楽教育専修		4	4	4	3
	美術教育専修		6(1)	6(1)	5	5
	保健体育専修		11(1)	11(1)	10(1)	9(1)
	小計	32人	48(5)	47(5)	42(3)	38(3)
	合計	52人	75(10)	72(10)	60(6)	52(6)

※()内数字は、外国人留学生で内数

平成25年3月卒業(修了)者の就職内定状況

平成25年3月31日現在

(1) 教育学部(教育人間科学部含む)

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
学校教員養成課程(学校教育課程)	210	12	17	21	121	39	181	21	113	38	172	100.0	93.4	97.4	95.0
学習社会ネットワーク課程	45	1	3	4	4	33	41	4	3	31	38	100.0	75.0	93.9	92.7
生活科学課程(生活環境科学課程)	17	2	3	1	2	9	12	1	2	9	12	100.0	100.0	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	34	1	2	6	6	19	31	6	4	17	27	100.0	66.7	89.5	87.1
芸術環境創造課程	62	9	7	1	7	38	46	1	7	36	44	100.0	100.0	94.7	95.7
計	368	25	32	33	140	138	311	33	129	131	293	100.0	92.1	94.9	94.2

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
学校教育専攻	11	1	1	0	7	2	9	0	6	2	8	—	85.7	100.0	88.9
教科教育専攻	38	1	5	0	24	8	32	0	22	7	29	—	91.7	87.5	90.6
計	49	2	6	0	31	10	41	0	28	9	37	—	90.3	90.0	90.2

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員	企業等	計		
養護教諭特別別科	38	0	1	2	15	20	37	2	15	20	37	100.0	100.0	100.0	100.0

注)平成24年9月卒業(修了)者を含む

教育学部附属学校生徒数

24. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	23
	4歳児学級	1	35	35	26
	5歳児学級	1	35	35	19
新潟小学校		12	35	470	449
	複式学級	3	16	48	47
長岡小学校		12	35	470	409
新潟中学校		9	40	360	353
長岡中学校		9	40	360	352
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	18
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,858	1,744

備考

附属新潟小学校及び附属長岡小学校については、平成24年度入学児童の1学級定員が40人から35人になり、学年進行により収容定員は順次改訂されます。